marantz®

Model PS4500 取扱説明書

AV Surround Amplifier

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保管してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されおりますが、ご不審な箇所などがありましたら、お早めにお買い上げ店、または最寄りの株式会社マランツコンシューマー マーケティング各営業所にお問い合わせください。

本機の主な特長

7チャンネル ディスクリートパワーアンプ
- 全7チャンネル同一パフォーマンスのハイパワー・ワイドレンジ・ディスクリート・パワーアンプ搭載。

最新サラウンドデコーダーをフル搭載
- 7チャンネルパワーアンプを強力にサポートする7.1ch サラウンドフォーマットに対応。
- ドルビー ラボラトリーズが新たに規定した「ドルビープロロジック Ⅱx」、および「ドルビーデジタルEX」、音楽再生などで評価の高いSRS社CS5.1を更に改良し6.1チャンネル化した「CS Ⅱ」、DTS社の提唱する「DTS-ESディスクリート6.1」、「DTS-ESマトリクス6.1」、2チャンネル信号を6.1チャンネル化する「DTS-Neo6」、DVD-Audioの新フォーマットに追加された「DTS96/24」、またBSデジタルの5.1チャンネルフォーマットの「MPEG2ーAAC」にも対応します。

スーパーオーディオ(SACD/DVD-AUDIO)対応7.1CH INPUT
- 7.1チャンネルダイレクト外部入力端子を備え、SACDやDVDオーディオのマルチチャンネル再生に対応し、将来の拡張性を高めています。

フロントカーソルボタン
- フロントパネルにカーソルボタンを新規に搭載しました。デザインの刷新とともにユーザーインターフェースを大幅に改善しました。

シンプルビデオコンバート機能
- コンポジット端子（ビデオ端子）から入力される映像信号をS端子に出力するビデオアップコンバーター機能 / S端子から入力される映像信号をコンポジット端子（ビデオ端子）に出力するビデオダウンコンバーター機能を搭載しました。ビデオ機器の接続の自由度が拡大します。

HT-EQ(ホームシアター・イコライザー)
- 映画館ではセンタースピーカーがスクリーンの後ろにあるため、映画ソフトはスクリーンでの減衰を見込んで高域を強調して録音されています。本機では、映画館とホームシアターとの差異を補正するHTEQ（ホームシアター・イコライザー）を搭載し、製作者の意図通りの映画再生をご家庭でお楽しみいただけます。

豊富なデジタル入出力端子
- デジタル入力端子同軸2系統／光2系統、デジタル出力端子同軸1系統／光1系統を装備し、DVDプレーヤーからCDレコーダー、MDデッキなどのデジタル録音機器まで幅広く対応します。

シンプルセットアップ機能搭載
- スピーカーの詳細な設定機能（セットアップメニュー）に加えてシンプルセットアップ機能を搭載しました。本体の“SIMPLE SETUP”ボタンとカーソルボタンにより簡単にスピーカーの本数、部屋の大きさを設定することができます。

S.SPEAKER B(サラウンドスピーカーB)機能
- サラウンドバックスピーカー端子をフロントのL/Rとして使用することができます。Bi-Wire接続やメインスピーカーと別のエリア（場所）で再生すること等が可能です。ライフスタイルに合わせてお使いください。

その他の特徴

- 32bit 最新DSPを搭載。
- 192kHz/24bit DAコンバータを全チャンネルに採用。
- 192kHz/24bit ADコンバータをアナログ入力用に採用。
- 音楽再生時に映像出力を停止させる、ビデオ オフ モード。
- L/R 2チャンネルスピーカーでもサラウンド効果を楽しめる バーチャルサラウンド機能。
- ヘッドホンで立体音響を体感できるTruSurroundヘッドホン機能。
- 確実なスピーカー結線が可能な 全チャンネル大型スクリュー式スピーカーターミナル。
- 環境に配慮したスタンバイ消費電力低減モード。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や低部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。

  この機器をあお向けや横倒しし、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

- この機器を設置する場合は、壁から2.5cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から2.5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

警告

- この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。

- この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

分解禁止

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

注意

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、またはテレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみなる前にも、音量(ボリューム)を最小にしてください。

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードは使用しないでください。

- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

注意

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ご不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示(条例)に従って処理してください。

- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

- ５年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス⊕端子とマイナス⊖端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

- 長期間使用しないときは、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池室についた液をよく拭き取ってから新しい電池をいれてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。

エーエーシー　アドバンスド　オーディオ　コーディング
AAC　(Advanced Audio Coding)

BSデジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2CHステレオ音声に加え、5.1CHサラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

5,848,391	5,291,557	5,451,954	5 400 433	5,222,189
5,357,594	5 752 225	5,394,473	5,583,962	5,274,740
5,633,981	5 297 236	4,914,701	5,235,671	07/640,550
5,579,430	08/678,666	98/03037	97/02875	97/02874
98/03036	5,227,788	5,285,498	5,481,614	5,592,584
5,781,888	08/039,478	08/211,547	5,703,999	08/557,046
08/894,844	5,299,238	5,299,239	5,299,240	5,197,087
5,490,170	5,264,846	5,268,685	5,375,189	5,581,654
5,548,574	5,717,821	08/937,950	05-183,988	08/506,729
08/576,495	08/392,756			

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、ProLogic及びダブルD記号及び"AAC"ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

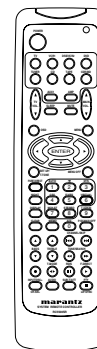
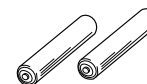
Circle Surround II、Tru Surround、Tru Surround Headphone、SRSと(●)記号はSRS Labs, Inc.の商標です。
Circle Surround II、Tru Surround、Tru Surround Headphone技術は、SRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

DTSおよびDTS Digital Surroundは、Digital Theater System, Inc.の登録商標です。

付属品の確認

下記の付属品が揃っていることを確認してください。

もし、不足している物がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。

リモコン（RC5500SR）　1個

単4形乾電池　2本

保証書　1部　（外箱に貼り付け）

取扱説明書（本書）　1冊

目　次

各部の名称とはたらき

フロントパネル

① POWER(主電源)"入／切"スイッチ・STANDBY(スタンバイ)表示インジケーター
このスイッチを押すと、本機の主電源が入ります。もう一度押すと主電源が切れます。主電源が入っている状態にてリモコンによるパワーオン／スタンバイの切り替えが可能です。本機が電源スタンバイ状態の時にSTANDBY インジケータが点灯します。

② 7.1CH INPUT ボタン
7.1CH入力を選択する時にボタンを押します。もう一度押すと、切り替える前に選択していた入力ソースに戻ります。(24 ページ参照)

③ INPUT SELECTOR(入力ファンクション切り替え)ノブ
入力ソースを選択する時に使います。
スタンドバイモードから起動するときは、回転させて下さい。(エコノミーモードは除く)

④ S.SPEAKER B(サラウンドスピーカー B)ボタン
サラウンドスピーカー B機能の動作切り替えに使用します。(25ページ参照)。

⑤ リモコン受光部
付属リモコンからの赤外線コントロール信号を受光します。

⑥ SURROND MODE(サラウンドモード)切り替えボタン
サラウンドモードの切り替えに使用します。

⑦ PURE-DIRECT (ピュアダイレクト) ボタン
このボタンを押すと、トーンコントロール回路などをバイパスする「**ピュアダイレクト**」モードになります。

ご注意
ピュアダイレクトモードにすると、サラウンドモードは自動的にAUTOに切り替わります。
ピュアダイレクトモードを解除するには、本体またはリモコンを使って他のサラウンドモードを選びます。
ピュアダイレクトモードにすると、各スピーカーのサイズは自動的に以下のように固定されます。

FRONT（フロント）= LARGE
CENTER（センター）= LARGE
SURROUND（サラウンド）= LARGE
SUBWOOFER（サブウーファー）= ON

⑧ SIMPLE SETUP (シンプルセットアップ)ボタン
シンプルセットアップの設定に使います。(12ページ参照)

⑨ DISPLAY(ディスプレイモード切り替え) ボタン
前面ディスプレイの表示動作の切り替えに使用します。
(22 ページ参照)

⑩ NIGHT(ナイト)ボタン
ナイトモードの切り替えに使用します。(18ページ参照)

⑪ SLEEP(スリープ)ボタン
スリープタイマーを設定するときに使用します。(18ページ参照)

⑫ VOLUME(音量調整)ツマミ
全体の音量調節に使用します。右に回すと音量が大きくなります。左に回すと音量が小さくなります。

⑬ ATT(アッテネート)ボタン
アナログ入力信号のレベルを下げるときに使用します。(22ページ参照)

⑭ MUTE(ミュート)ボタン
このボタンを押すとスピーカーやヘッドホンから出力される音が一時的に消えます。もう一度押すと元の音量に戻ります。(18ページ参照)

⑮ V-OFF (ビデオOFF)ボタン
全てのビデオ信号出力端子のビデオ信号出力を停止状態にする(VIDEO-OFF)モードの切り替えに使用します。(22ページ参照)

⑯ A/D(アナログ／デジタル切り替え)ボタン
音声入力信号の「アナログ入力」と「デジタル入力」を切り替えるときに使用します。

注意
このボタンはシステムセットアップでアナログ入力に設定されている入力ソースには働きません。(22ページ参照)

⑰ EXIT(エグジット)ボタン
セットアップメインメニューから抜けるときに使用します。

⑱ カーソル/ENTER(エンター)ボタン
セットアップメインメニューとシンプルセットアップの設定に使用します。
スタンバイモードから起動するときはENTERボタンを押してください。

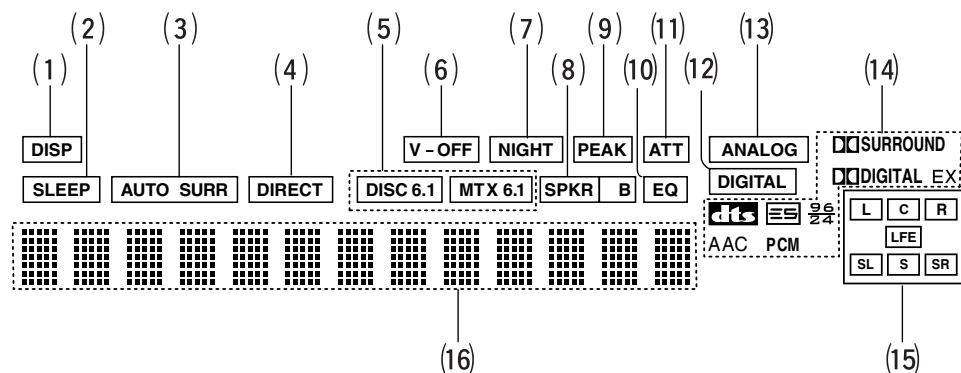
⑲ MENU(メニュー)ボタン
セットアップメインメニューの設定に使います。(11ページ参照)

⑳ HT-EQ ボタン
HT-EQ(ホームシアターイコライザー)のON／OFFを切り替えるときに使用します。(23ページ参照)

㉑ AUTO(オート)ボタン
サラウンドモードをオートに切り替えるときに使用します。

㉒ PHONES端子(ヘッドホン端子)
ヘッドホン用の接続端子です。この端子にヘッドホンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。

ご注意
ヘッドホンをご使用の場合、サラウンドモードは自動的にSTEREO(ステレオ)またはTruSurroundに切り替わります。
ヘッドホンをPHONES端子から外すと、ヘッドホンを接続する前に設定していたサラウンドモードに戻ります。(22ページ参照)

表示部

(1) DISP(ディスプレーOFF)表示
表示部が消灯(ディスプレイオフ)状態のときに点灯します。(22ページ参照)

(2) SLEEP(スリープタイマー)表示
スリープタイマー機能を使用しているときに点灯します。(18ページ参照)

(3) AUTO SURROUND(オート・サラウンドモード)表示
AUTO SURROUND(オートサラウンド)モードが使用されているときに点灯します。

(4) DIRECT(ダイレクト)表示
ピュアダイレクトモードを選択している場合に点灯します。

(5) DTS-ES デコードモード表示
DTS-ESデコード動作モード(Discrete-6.1かMatrix-6.1)を表示します。

(6) V-OFF(ビデオ オフ)表示
ビデオオフ機能が動作している場合に点灯します。(22ページ参照)

(7) NIGHT(ナイトモード)表示
NIGHT モードを機能させた場合に点灯します。(18ページ参照)

(8) SPKR(スピーカー) B表示
S. SPEAKER B(サラウンドスピーカーB) モードを使用しているときに点灯します。

(9) PEAK(ピーク)表示
アナログ入力を選択時、入力信号が過大レベルの場合点灯します。この場合、アッテネーター機能を働かせて下さい。(22ページ参照)

(10) EQ(ホームシアターイコライザー)表示
HT-EQ(ホームシアターイコライザー)機能が動作しているときに点灯します。(23ページ参照)

(11) ATT(アッテネーション)表示
アッテネーション機能が働いているときに点灯します。(22ページ参照)

(12) DIGITAL(デジタル)入力表示
デジタル入力ソースが選ばれているときに点灯します。

(13) ANALOG(アナログ)入力表示
アナログ入力ソースが選ばれているときに点灯します。

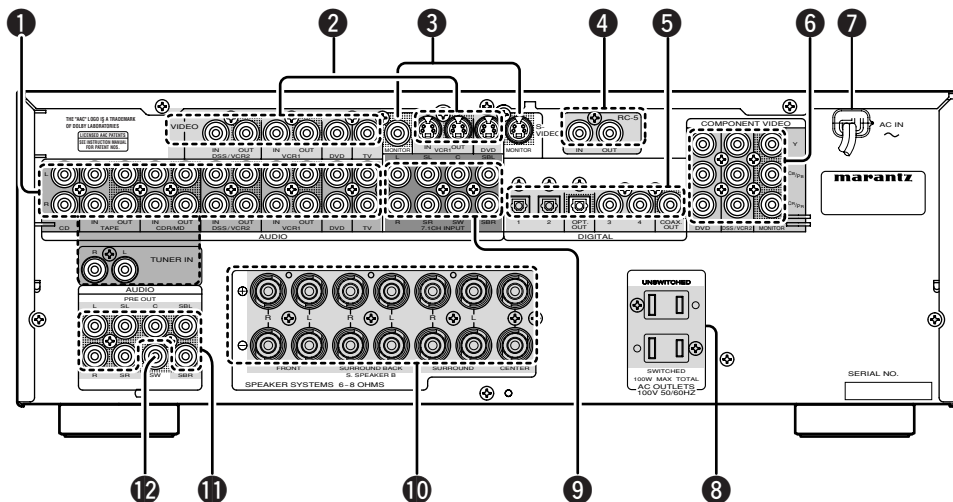
(14) デジタル信号フォーマット表示部
デジタル入力を選択している場合に、入力されている信号のフォーマットを点灯表示します。

- DIGITAL：ドルビーデジタル信号が入力されている場合に点灯します。
- SURROUND：入力信号がドルビーデジタル信号で、かつサラウンド処理をされている場合に点灯します。
- dts：dts信号が入力されている場合に点灯します。
- ES：dts-ES処理が施されたdts信号が入力されている場合に点灯します。
- 96/24：dts-96/24処理が施されたdts信号が入力されている場合に点灯します。
- PCM：PCM信号が入力されている場合に点灯します。
- AAC：MPEG2－AAC信号が入力されている場合に点灯します。

(15) プログラムチャンネル表示
デジタル入力信号を再生時、入力信号の記録チャンネル数を表示します。
5.1ch信号入力時は **L, C, R, SL, SR, LFE** が点灯します。
2ch信号が入力された場合は **L, R** が点灯します。詳細は、21ページのサラウンドモード/入力信号対応表をご覧下さい。

(16) 選択入力、サラウンドモード表示部
選択した入力ファンクションや、サラウンドモード等を表示します。

リアパネル

「各機器との接続」(7〜10ページ)の接続例を参照しながらご利用ください。

① オーディオ信号用端子(アナログ音声信号入出力)

AV機器のアナログ音声信号入力/出力端子と接続します。本機は、8系統の音声入力と4系統の音声出力を装備しています。(8ページ参照)

入力端子
再生機器(CDプレーヤー、カセットデッキ、MDプレーヤー、TVチューナー、DVDプレーヤー、VCR等)のアナログオーディオ信号出力(PLAY)端子に接続します。

出力端子
録音用機器(カセットデッキ、MDプレーヤー等)や録画用機器(VCR等)のアナログオーディオ信号入力(REC)端子に接続します。

② 映像信号用端子(ビデオ信号入出力・S-Video 信号入出力)

本機は、背面に4系統の映像入力と2系統の映像出力を装備しています。(9ページ参照)

入力端子
映像機器(TVチューナー、DVDプレーヤー、VCR等)のビデオ信号・S-Video出力(PLAY)端子に接続します。

出力端子
録画用映像機器(VCR等)のビデオ信号・S-Video入力(REC)端子に接続します。

③ モニター用映像出力端子(ビデオ信号出力、S-Video信号出力)

テレビやプロジェクターのビデオ入力端子やSビデオ入力端子に接続します。本機は、ビデオ出力端子とSビデオ出力端子を各1系統装備しています。(9ページ参照)

④ リモコン入出力端子

他のマランツAV製品と組み合わせてシステムコントロールする場合に、組み合わせる製品のリモコン入出力端子と接続します。(10ページ参照)

⑤ デジタル入力端子1-4、出力端子(光入出力 & 同軸入出力)

(8ページ参照)

入力端子
デジタル機器(DVD、CD、MD、BSチューナー等)のデジタル信号出力端子に接続します。接続する機器の出力端子の種類に合わせて使用して下さい。また、INPUT SETUPにて必ず設定をおこなって下さい。(13ページ参照)

出力端子
デジタル録音機器(CD-Rプレーヤー、MDプレーヤー等)のデジタル信号入力端子に接続します。接続する機器の出力端子の種類に合わせて使用して下さい。

⑥ コンポーネントビデオ信号入出力端子

(9ページ参照)

入力端子
本機の入力端子と映像機器(TVチューナー、DVDプレーヤー)のコンポーネントビデオ信号出力端子に接続します。

出力端子
本機のモニターOUTをTVやプロジェクターのコンポーネントビデオ信号入力端子へ接続します。

⑦ 電源ケーブル

付属のACケーブルを接続し、家庭用交流100V(50/60Hz)のコンセントに電源プラグを挿し込みます。

万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

⑧ ACアウトレット(SWITCHED/UNSWITCHED)

本機のACアウトレットから他のAV機器に電源を供給できます。本機はSWITCHEDとUNSWITCHEDのACアウトレットを装備しています。

SWITCHED(スイッチド:連動)
本機の電源ON/スタンバイに連動し、電源供給をON/OFFします。
消費電力が最大100Wまでの機器を接続できます。

UNSWITCHED(アンスイッチド:非連動)
本機の電源ON/スタンバイに関係なく、電源供給をします。消費電力が最大100Wまでの機器を接続できます。

> ⚠ **警 告**
> **絶対許容電力以上の機器を接続しないで下さい。許容電力以上の機器を接続すると、火災・感電の原因となります。**

⑨ 7.1ch 音声入力端子

SACDマルチチャンネルプレーヤーやDVDオーディオプレーヤーのマルチチャンネル音声出力端子に接続します。(10ページ参照)

⑩ スピーカー出力端子(L, R, C, SL, SR, SBL, SBR)

各チャンネル(フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R)のスピーカーに接続します。(7ページ参照)
サラウンドバックスピーカーを使用しないときは、サラウンドバックL/Rの端子は“サラウンドスピーカーB”として使用することができます。(25ページ参照)

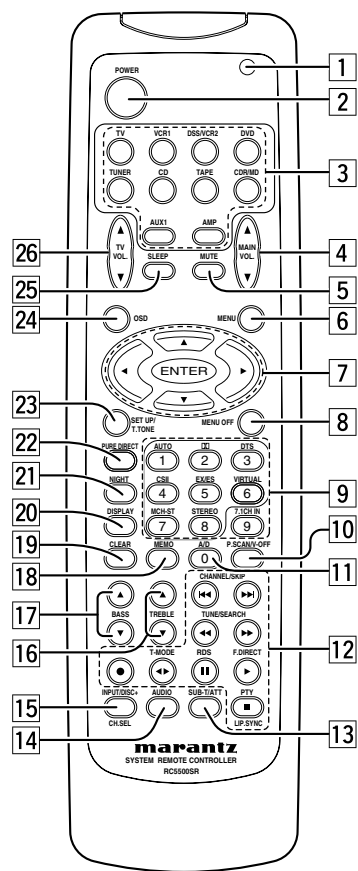
⑪ プリアンプ出力端子(L, R, C, SL, SR, SBL, SBR)

音声各チャンネルのプリアンプ出力端子です。外部パワーアンプを追加する場合に使用します。(10ページ参照)

⑫ サヴウーファー用出力端子

サブウーファー用プリアンプ出力です。サブウーファー用の外部パワーアンプもしくはアンプ内蔵サブウーファーに接続します。(7、10ページ参照)

リモコンRC5500SR

名称と機能

ご注意

- リモコンのコード設定については、「リモコンの設定変更」(25ページ)を参照してください。

1 送信表示

各ボタンを押し、リモコンが送信を行っているときに点灯します。

2 POWERボタン

AMPボタンを押した後に、このボタンを押すと、本機の電源をONとスタンバイに切り替えます。

3 ファンクションボタン

本機の入力ソースとリモコンの操作モードを切り替えるときに使います。押したボタンの機器が操作できるようになります。このリモコンで11種類の機器をコントロールできます。
本機の入力ソースを切り替えるときは、必ずボタンを2秒以内に続けて2回押してください。
また、初期状態ではCDR/MDボタンは、CD-R機能になっています。MD機能に切り替えるには、CDR/MDボタンを押しながら、10キーボタンの2を押してください。CD-R機能に戻すには、CDR/MDボタンを押しながら、10キーボタンの1を押してください。

4 MAIN VOL. ボタン

本機の音量を調節するときに使います。接続されているスピーカーの音量は同時に変化します。

5 MUTEボタン

本機の音声を一時的に消音するときに使います。

6 MENUボタン

AMPモードでこのボタンを押すとセットアップメニューになり、本機の各種設定を変更することができます。

7 カーソルボタン

(リモコンをAMPモードで使用します)
セットアップメニューを操作するときに使います。(11ページ参照)

8 MENU OFFボタン

(リモコンをAMPモードで使用します)
セットアップメニューを操作しているときに、このボタンを押すと通常の動作に戻ります。

9 10キー/サラウンドモードボタン

リモコンがAMPモードになっているときは､サラウンドモードの切り替えができます。
他のモードのときは、各機器に有効な0〜9の入力に使用します。

10 P.SCAN/V-OFF(ビデオオフ)ボタン

全てのビデオ信号出力端子のビデオ信号出力を停止状態にする(VIDEO-OFF)モードの切り替えに使用します。(22ページ参照)

11 0/ A/Dボタン

0を入力するときに使います。
本機がAMPモード時、入力信号のアナログ/デジタルを切り替るときに使います。

12 コントロールボタン

AMP以外のモードにおいて、これらのボタンはDVDプレーヤーやCDプレーヤー、カセットデッキなどの製品を操作するときに使用します。ボタンの機能は、選択したファンクションボタンによって決まります。

13 SUB-T/ATT.ボタン

入力したアナログ音声信号が大きく本機のPEAK表示が点灯したときに、このボタンを押すと入力信号のレベルを抑えることができます。

14 AUDIOボタン

AAC二カ国語放送時に主音声、副音声の切り替えに使用することができます。

15 INPUT/DISC+

AMPモードになっているときに､各出力チャンネルのレベル調整をしたい時に使用します。

16 TREBLEボタン

出力のTREBLE(高音域)を調整するときに使います。

17 BASSボタン

出力のBASS(低音域)を調整するときに使います。

18 MEMOボタン

このボタンは、本機では使用しません。

19 CLEARボタン

このボタンは、本機では使用しません。

20 DISPLAYボタン

AMPモード時に、本機の前面表示部を各表示モードに切り替えます。

21 NIGHTボタン

夜間などに再生音のダイナミックレンジを押さえて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくするときに使います。
ナイトモードの効果は、ドルビーデジタルのソフトによって設定されています。本動作に対応していないソフトには効果がない場合があります。

22 PURE DIRECTボタン

ピュアダイレクトモードのオン・オフ切り替えに使います。

23 SETUP/T.TONEボタン

各スピーカーからの出力バランスを調整するときに使います。AMPボタンを押して、このボタンを押すと各スピーカーから順次調整用の音(ピンクノイズ)が出力されます。再度このボタンを押すと、調整用の音は停止されます。

24 OSDボタン

アンプモード時に、このボタンを押すと本機の基本動作状態をOSDインフォメーションとして確認できます。

25 SLEEPボタン

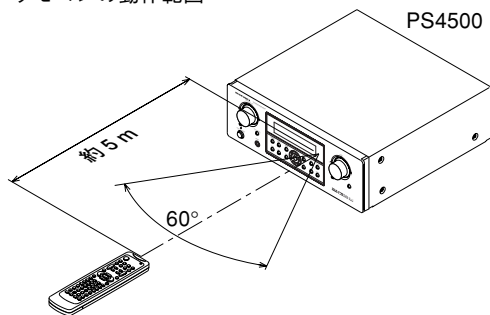
スリープタイマー設定時に使います。

26 TV VOL.ボタン

テレビの音量を調節するときに使います。

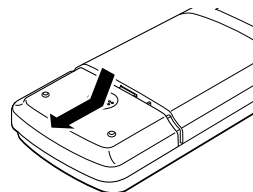
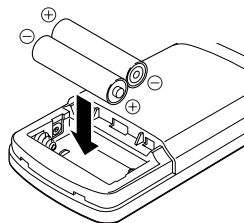
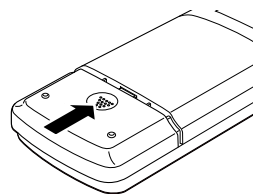
リモコンの動作範囲

本機 PS4500と付属リモコンRC5500SRによる操作可能範囲は下図のように約5m以内です。
リモコンの操作はPS4500のリモコン受光部に向けて行ってください。また、リモコンとPS4500の間に障害物がある場合、正常な動作ができない場合があります。

リモコンの動作範囲

リモコン(RC5500SR)

リモコンに電池を装着

付属リモコンをご使用になる前に、単四乾電池 2本をリモコンに装着してください。
付属の乾電池はリモコンの初期動作確認用です。

1. **リモコン背面の電池カバーを矢印方向に押しながら外します。**

2. **新しい単四乾電池 2本を、極性表示(＋：プラスと－：マイナス)に注意し、表示通りに正しく装着します。**

3. **電池カバーを以下のように元に戻します。**

⚠注意

- 古い電池と新しい電池をいっしょに使用しないでください。腐食・液漏れの原因となることがあります。
- 付属のマンガン電池は、操作の確認用です。ご使用の際にはアルカリ電池をおすすめします。
- 電池を廃棄する時は、お住まいの市区町村の条例または指示にしたがってください。電池は火に投げ入れないでください。

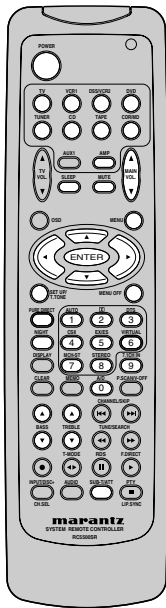
電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため下記のことを必ずお守りください。

- 長時間放置すると乾電池の液漏れやまた腐食することがあります。
  長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- リモコンの乾電池の＋と－の位置をまちがえてお使いにならないでください。
- 乾電池を充電したり、暖めたり、また分解などしないでください。乾電池を火の中に投げ入れないでください。
- 古い乾電池、また使い切った乾電池はリモコンの中に入れてお使いにならないでください。
- 異なったタイプの乾電池を使用したり、また古い乾電池と新しい乾電池をいっしょにお使いにならないでください。
- リモコンが正常に作動しない場合は、乾電池を新しいものと入れ替えてください。
- 乾電池の液が漏れた場合は、漏れた液体をきれいに拭き取り、新しい乾電池と入れ替えてください。

リモコンでPS4500を操作する

付属リモコンRC5500SRを使用してPS4500を操作するには、入力切り替え／ファンクションボタンでAMP（アンプ）を選びます。
AMP（アンプ）モードの詳細については以下を参照してください。

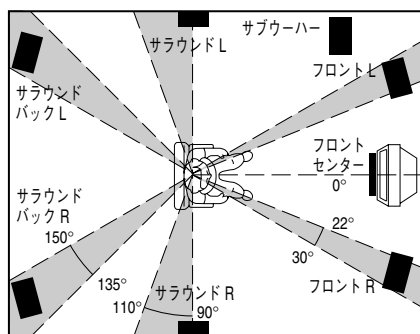
AMPモード

POWER	PS4500の電源オン／スタンバイの切り替え
入力ファンクション	PS4500の入力機器の選択
SLEEP	スリープタイマー機能を設定
MUTE	一時的に音声出力停止、および解除
VOL ▲▼	全チャンネルの音量の調整
MENU	セットアップメニューへ入る
カーソル	セットアップメニューにおいて設定のためにカーソルを移動
ENTER	セットアップメニューへ入る セットアップメニューでの各種設定を確定
SETUP/T.TONE	テスト信号を用いた、 スピーカーレベルの設定用にスピーカーレベルセットアップ画面に入る
MENU OFF	セットアップメニューから出て通常動作に戻る
PURE-DIRECT	ピュアダイレクトモードの選択
NIGHT	ナイトモードのオン、オフ
サラウンドモード（0ー8）	サラウンドモードの選択
7.1CH IN（9）	7.1チャンネル インップトを選択
A/D（0）	デジタル入力、アナログ入力の切り替え
BASS ▲▼	低音域の調整
TREBLE ▲▼	高音域の調整
SUB-T/ATT	アナログ入力信号レベルの減衰。

各機器との接続

スピーカーの配置

本機における理想的なサラウンド再生スピーカーシステムは　フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R、サブウーファーの合計8チャンネルです。
しかし、サラウンド再生に最低限必要なスピーカーシステムはフロントL/R、サラウンドL/Rです。この場合ドルビーデジタルEXやDTS-ESの再生はできません。
本機では使用するスピーカーの数や位置、また低音域の出力特性にあわせて設定をおこないます。
（13ページ　SPEAKER SETUP スピーカーの設定の項参照）

配置のポイント

スピーカーの配置は、実際、部屋の大きさなどによって違いますが、ここでは各スピーカーの基本的配置例と配置のポイントを説明します。

フロントL/Rスピーカー
リスニングポジションから見てLとRのスピーカーが 45度〜60度の角度を持つように設置することを推奨します。

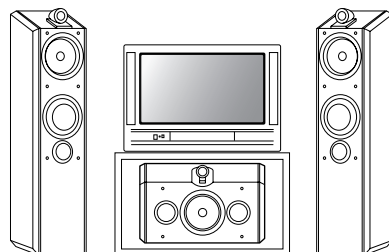
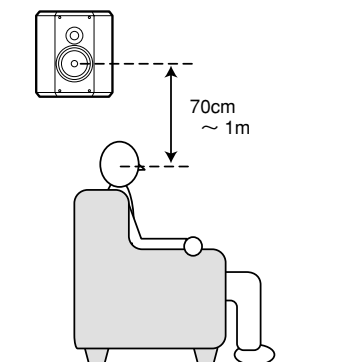
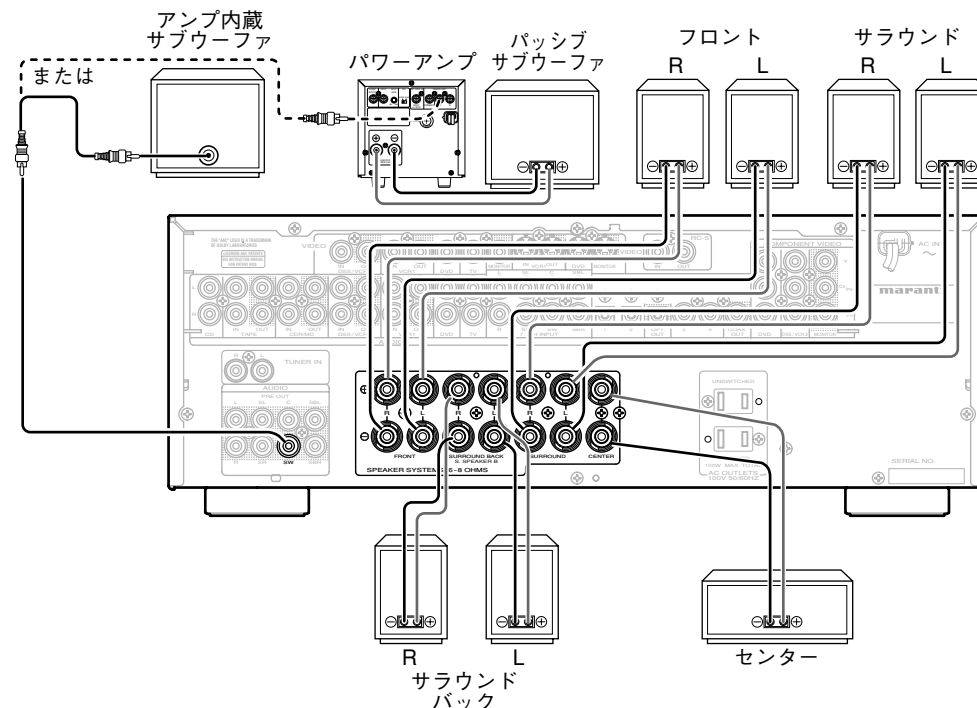
センタースピーカー
フロントL/R スピーカーと前面を揃えるか、または少しだけ後方にずらして設置します。

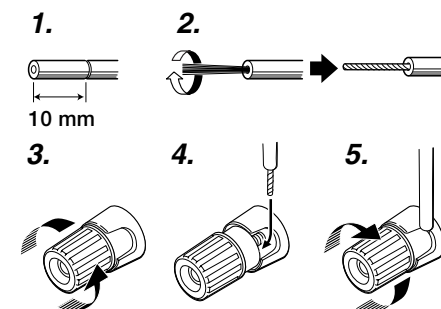
サラウンドL/Rスピーカー
サラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの真横または少しだけ後方にずらした壁際に設置します。スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

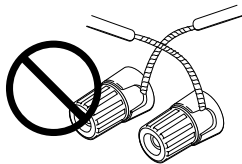
サラウンドバックL/Rスピーカー
7.1chサラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの後の壁際に設置します。
スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サブウーファー
低音の効果を最大限に得るために利用することをお勧めします。サブウーファーは低音域のみを扱う為、部屋の中であれば位置はそれほど重要ではありません。

スピーカー配置の高さ

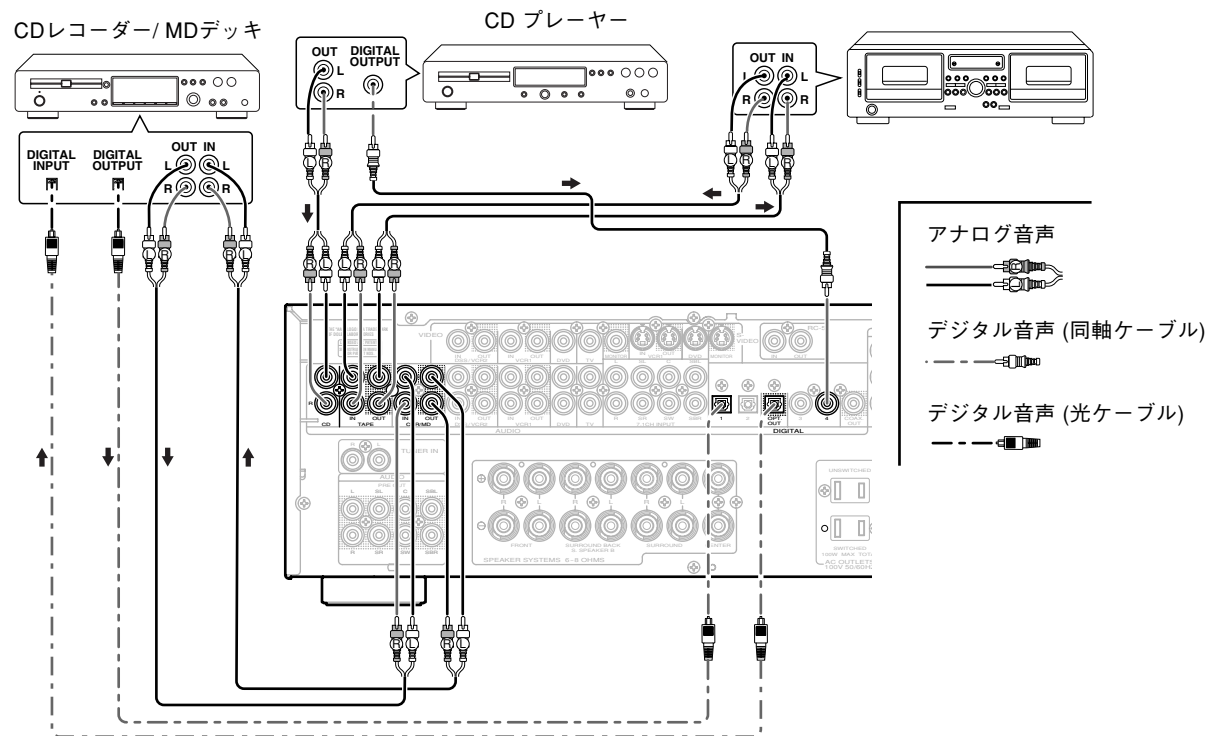
フロントスピーカー（L、R、センター）
3つのフロントスピーカーの中・高域用ユニットはできる限り同じ高さに揃えます。これは、センタースピーカーをテレビセットの真上、または真下に設置することを意味します。
このような場合、防磁型のセンタースピーカーを使う必要があります。

サラウンドL/R、サラウンドバックスピーカー
場所が許す限り、リスナーより70センチから1メートル程上方に設置します。この位置で設置することにより、音源定位を際立たせず、より包み込むようなサラウンド感を実現します。

スピーカーの接続

スピーカーコードの接続

1. スピーカーコードの皮膜を約 10mm 取り除きます。
2. ショート防止のためコードの裸部分をきつくよじってください。
3. スピーカー端子を左方向に回して、端子をゆるめるます。
4. スピーカー端子の側面にある穴にスピーカーコードの裸部分を挿入すます。
5. スピーカー端子を右方向に回して、端子を締めます。

ご注意

- 本機背面に表記されているインピーダンス仕様のスピーカーを必ずご使用ください。
- 回路への損害を防止するため、裸のスピーカーコード同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。

- 感電の恐れがあるので、電源がONのときはスピーカー端子に触れないでください。
- １つのスピーカー端子に複数のスピーカーコードを接続しないでください。本機に損害を与える恐れがあります。
- スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違えた場合、信号の位相は反転し、再生される音楽は不自然になります。

サブウーファーの接続

パワード(パワーアンプ内蔵)サブウーファーとの接続は、本機のサブウーファー用音声出力端子を使用してください。
パッシブタイプのサブウーファーをご使用の場合は、本機のサブウーファー用音声出力端子とモノラルパワーアンプを接続し、そのモノラルパワーアンプとパッシブタイプのサブウーファーを接続してください。
詳細な接続は、ご使用のサブウーファーの取扱説明書をお読みください。

音声機器との接続

TAPE出力端子とCD-R/MD出力端子からの音声出力信号は、現在選択されている音声ソースです。

ご注意

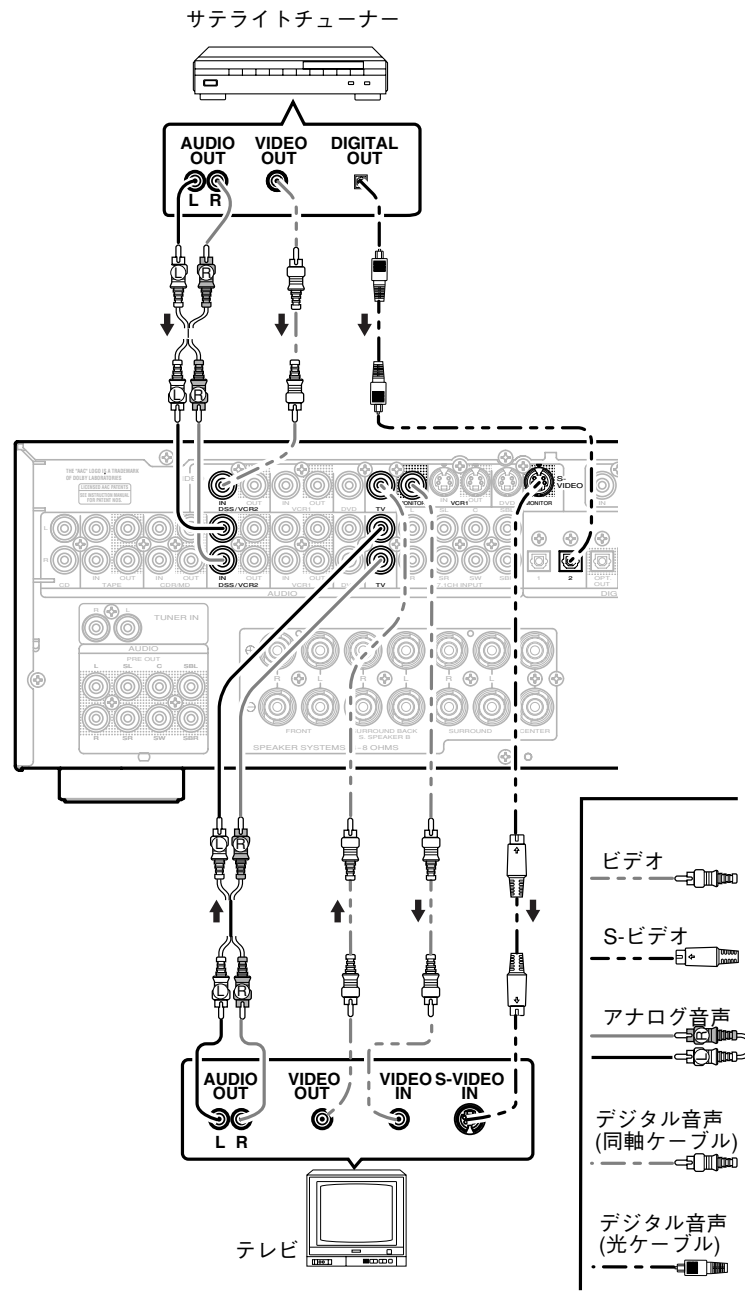
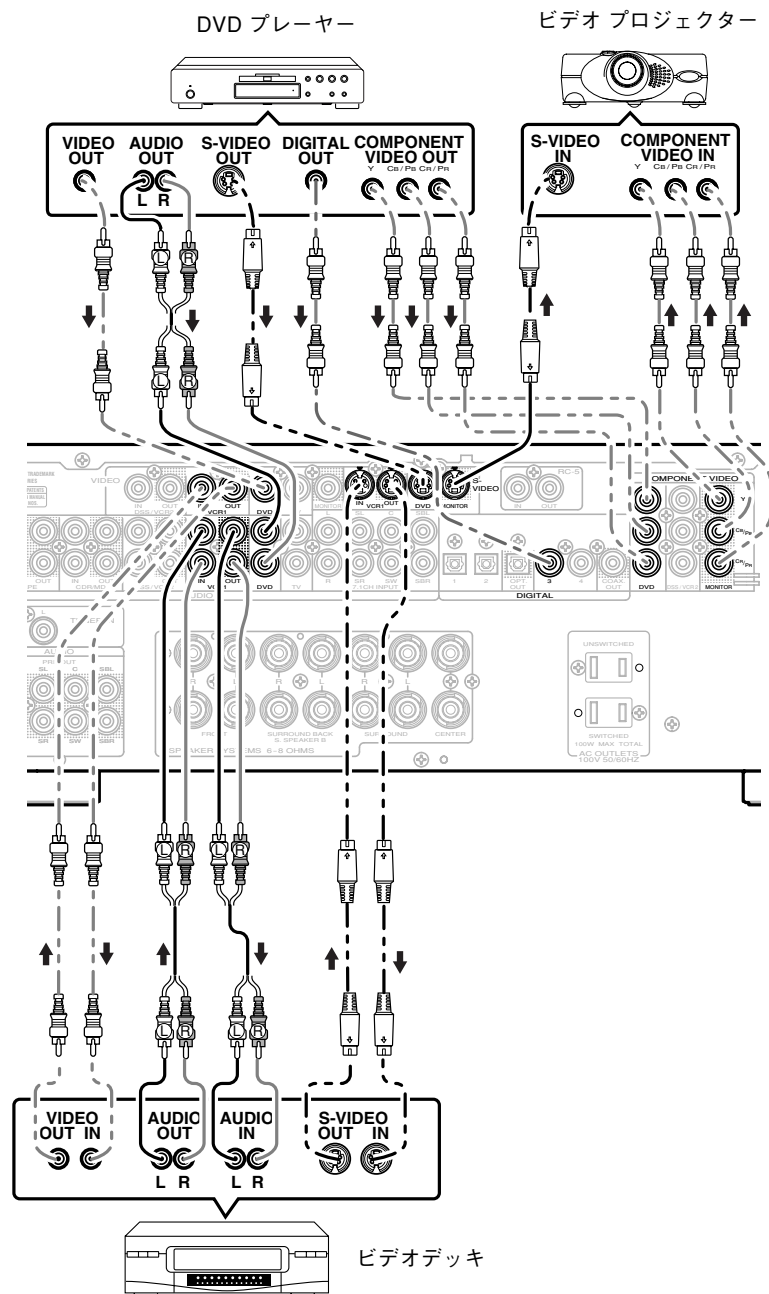
- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- L(左)チャンネルとR(右)チャンネルを正しく接続してください。赤い端子はR(右)チャンネル、白い端子はL(左)チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続するそれぞれの機器については、それぞれの取扱説明書を参考にしてください。
- 音声／映像接続ケーブルと電源コードやスピーカーコードは束ねないでください。束ねると、結果としてハムやその他の雑音を発生します。

デジタル音声機器との接続

- 本機の背面には、同軸端子2系統と光端子2系統、計4系統のデジタル入力があります。
- これらの端子を使用して、CDプレーヤーやDVDプレーヤーなどのデジタル音声機器からPCM信号、Dolby Digital信号、DTSビットストリーム信号、AACビットストリーム信号を入力できます。
- 本機の背面には、同軸端子1系統と光端子1系統、計2系統のデジタル出力があります。これらの端子は、CDレコーダーやMDデッキなどのデジタル録音機器との接続ができます。
- DVDプレーヤーや、その他デジタルソース機器のデジタル音声フォーマットの設定を行ってください。デジタル入力端子に接続されるそれぞれの機器については、取扱説明書を参照してください。
- DIG-1、2の入力端子には光ケーブルをご使用ください。DIG-3、4の入力端子にはデジタル音声用または映像用の75Ω同軸ケーブルをご使用ください。
- お手持ちの機器に応じて、それぞれのデジタル入出力端子に対して入力を指定することができます。(13ページ参照)

ご注意

- 本機はDolby Digital 用RF入力端子を装備していません。ビデオディスクプレーヤーのDolby Digital RF出力を使用する場合は、外付けのRFデモジュレーターをご使用ください。
- デジタルおよびアナログそれぞれの音声端子は独立しています。デジタル端子とアナログ端子に入力された信号は、対応するデジタル端子とアナログ端子にそれぞれ出力されます。

映像機器との接続

ビデオ、S-ビデオ端子

本機の背面には3つのタイプのビデオ(映像)端子があります。

ビデオ端子

ビデオ端子の映像信号は従来の複合映像信号です。

S-ビデオ端子

S-ビデオ端子用の映像信号は、輝度信号(Y)と色信号(C)に分離しています。S-ビデオ信号は高品質の色再現を可能にします。ご使用の映像機器がS-ビデオ出力を装備しているのであれば、S-ビデオ出力の使用をお勧めします。本機のS-ビデオ入力端子とご使用の映像機器のS-ビデオ出力端子を接続してください。

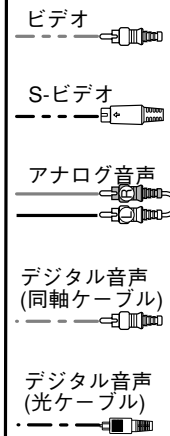
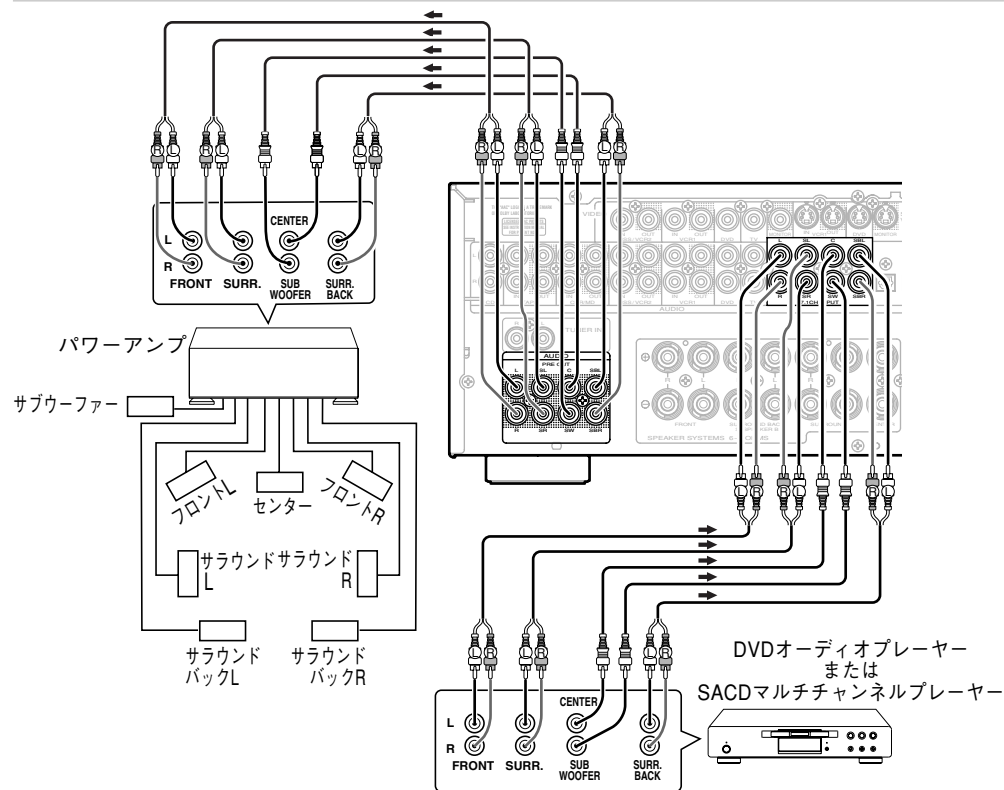
コンポーネントビデオ(色差ビデオ)端子

コンポーネントビデオ信号は輝度信号(Y)緑、色差信号(PB)青、色差信号(PR)赤の 3本から構成されており、より高品質な映像再生を可能にしております。

シンプルビデオコンバート機能

- 本機のS-VIDEO端子に入力された信号は内部でVIDEO信号に変換されてVIDEO MONITOR OUT端子にも出力されます。また、本機のVIDEO端子に入力された信号をS-VIDEO MONITOR OUT端子に出力することもできます。
- S-VIDEO端子とVIDEO端子の両方に入力されている場合はS-VIDEO信号が優先されます。

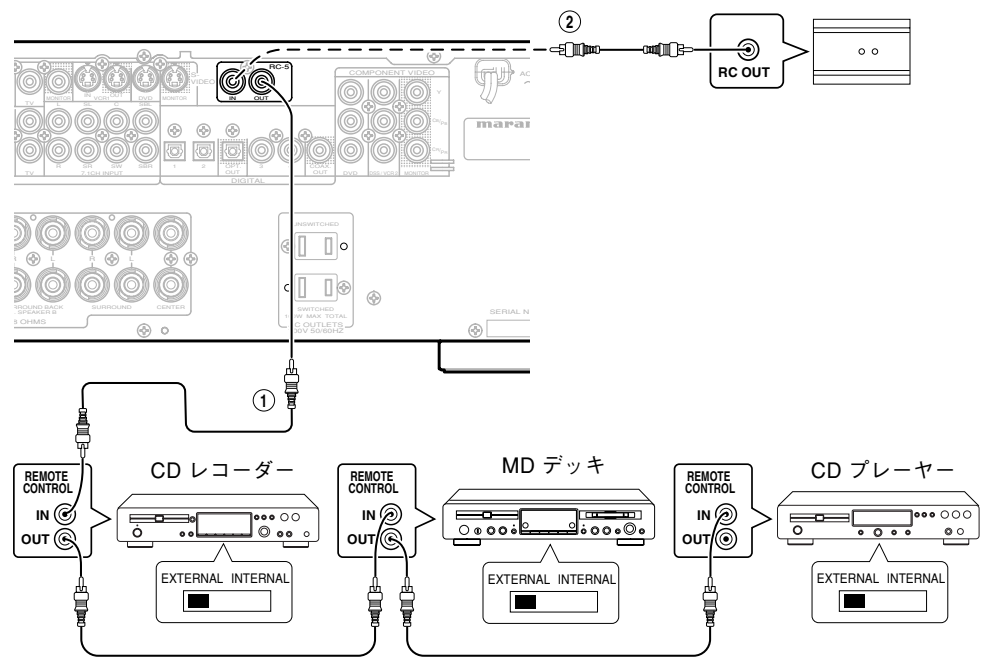
ご注意

- L(左)チャンネルとR(右)チャンネルを正しく接続してください。赤い端子はR(右)チャンネル、白い端子はL(左)チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- DVDプレーヤーや、その他デジタルソース機器のデジタル音声フォーマットの設定を行ってください。デジタル入力端子に接続されるそれぞれの機器については、取扱説明書を参照してください。

その他機器の接続

マルチチャンネルオーディオ機器との接続

7.1CH 音声入力端子は、SACDマルチチャンネルプレーヤー、DVDオーディオプレーヤーまたは外付けのデコーダーのようなマルチチャンネルオーディオソース用の端子です。
これらの端子を使用する場合には、7.1 CH INPUTに切替え、セットアップメニューを使用して、7.1 CH入力レベルを設定してください。

単体パワーアンプとの接続

単体パワーアンプをシステムに追加することで、更にホームシアターの臨場感を高めることができます。
プリアンプ音声出力端子をパワーアンプと接続し、それぞれのスピーカーと、それに対応するパワーアンプを接続してください。

リモートコントロール接続

①
- 他のマランツAV製品とリモートコントロール端子を接続することにより、付属のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。
- リモコン操作は本機に向けて行なってください。リモコンから送信された赤外線の信号は、本機のリモートコントロール受光部で受光され、リモートコントロール端子を通して他の機器に送られます。
- このリモートコントロール接続を行う場合、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチは、**EXT.** に設定して下さい。

②
本機のRC-5 IN端子に外付け赤外受光部などを接続して操作する場合、必ず以下の手順に従って本機の赤外受光部の動作を無効にしてください。

1. **本体フロントパネルの*7.1CH INPUT* ボタンと*MENU* ボタンを同時に5秒間押し続けます。**

本体前面表示部に「IR=ENABLE」と表示されます。

2. **本体のカーソルボタン(◀／▶)を押すと「IR=DISABLE」に変わります。**

3. **本体フロントパネルの*ENTER* ボタンを押します。**

本機の赤外受光部の動作は無効となり、リモコンでの操作ができなくなります。

ご注意

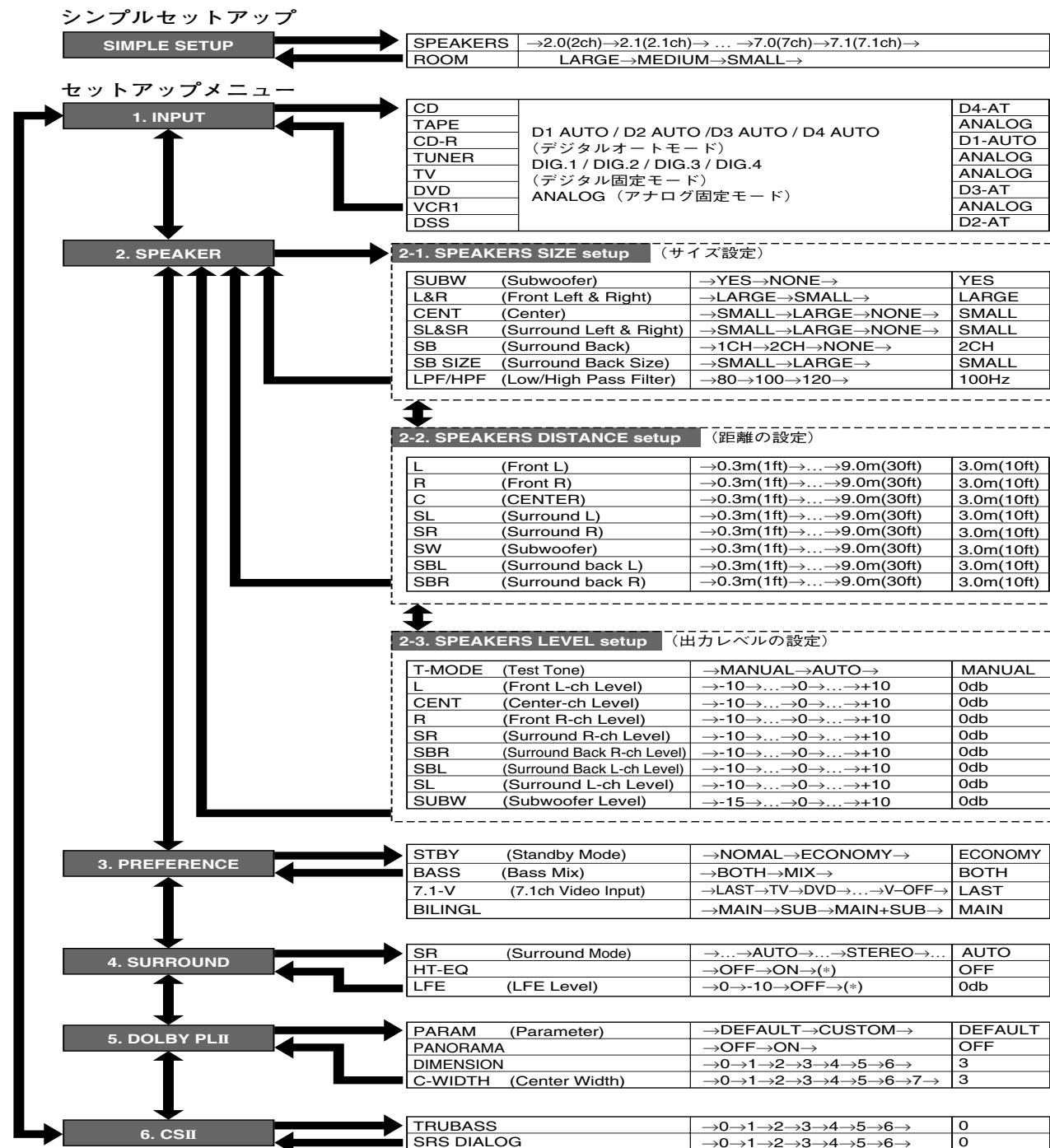
- 外付け赤外受光部などが接続されていない場合は、必ず「IR=ENABLE」に設定してください。「IR=DISABLE」に設定されていると、リモコンでの操作ができません。

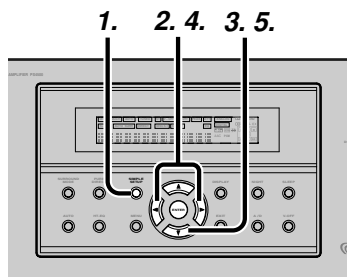
4. **元の設定に戻すには、手順1.から3.を行い「IR=ENABLE」に設定します。**

システムセットアップ

すべての機器の接続が完了した後、書記設定を行ってください。

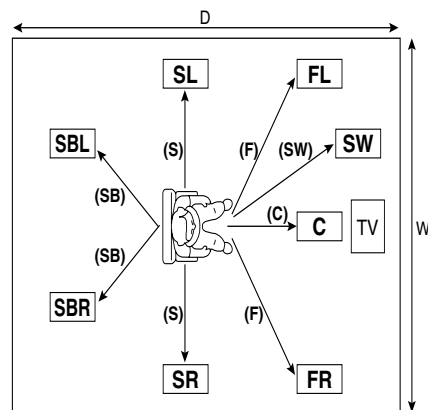
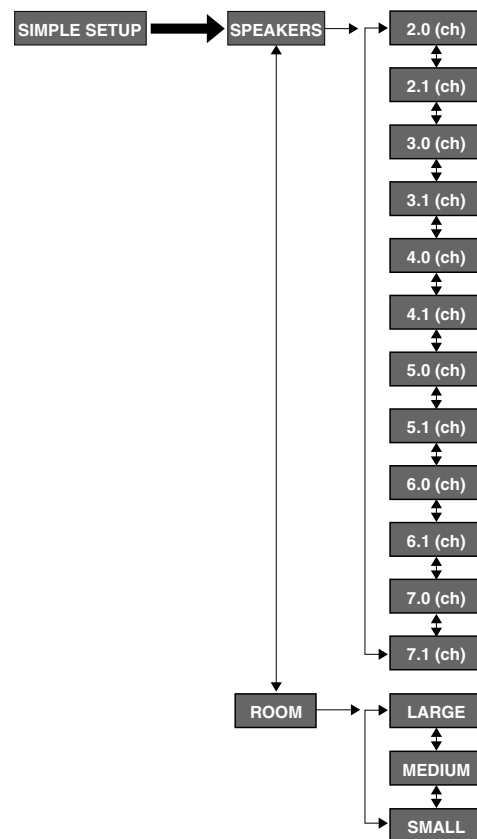
セットアップメニューシステム

メニューシステムはシンプルセットアップとセットアップメニューがあります。
メニューの構成は左図を参照してください。

シンプルセットアップ

スピーカーの本数、部屋の大きさ（ディレイタイム）を簡単に設定することができます。
本体の***SIMPLE SETUP*** ボタンと***カーソル*** ボタン（▲, ▼, ◄ , ►）で設定を行います。

1. ***SIMPLE SETUP*** ボタンを押します。
2. **"SPKRS=?"**と表示されます。カーソルボタン（◄ , ►）を押してスピーカーの本数を選択します。スピーカーの本数とサイズの関係は右表を参照してください。
3. （▼）ボタンを押すと **"ROOM =?"** に表示が変わります。
4. （◄ , ►）ボタンで部屋の大きさを選択します。
5. （▼）ボタンを押すと"**EXIT**"と表示されてメニューを終了します。

ご注意

● シンプルセットアップで設定した内容はセットアップメニューのスピーカーの設定に反映されます。

シンプルセットアップのメニュー構成

スピーカーの本数とサイズ

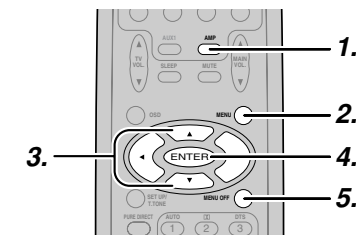
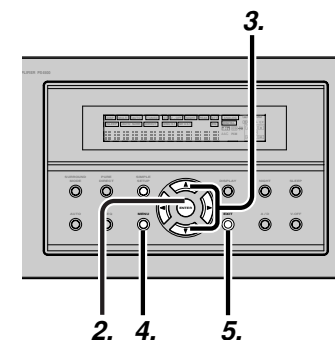
チャンネル数	Front L/R (F)	Front Center (C)	Surround L/R (S)	Surround Back L/R (SB)	Sub woofer (SW)
7.1 ch	LARGE	SMALL	SMALL	2ch	YES
7.0 ch	LARGE	SMALL	SMALL	2ch	NONE
6.1 ch	LARGE	SMALL	SMALL	1ch	YES
6.0 ch	LARGE	SMALL	SMALL	1ch	NONE
5.1 ch	LARGE	SMALL	SMALL	NONE	YES
5.0 ch	LARGE	SMALL	SMALL	NONE	NONE
4.1 ch	LARGE	NONE	SMALL	NONE	YES
4.0 ch	LARGE	NONE	SMALL	NONE	NONE
3.1 ch	LARGE	SMALL	NONE	NONE	YES
3.0 ch	LARGE	SMALL	NONE	NONE	NONE
2.1 ch	LARGE	NONE	NONE	NONE	YES
2.0 ch	LARGE	NONE	NONE	NONE	NONE

部屋のサイズとスピーカーの距離

サイズ	床面積	幅	奥行き	スピーカーとの距離	
SMALL	10 m^2	2.7 m	3.6 m	Front (F)	1.8 m (6 ft.)
				Center (C)	1.5 m (5 ft.)
				Surround (S)	1.2 m (4 ft.)
				Surr. Back (SB)	1.5 m (5 ft.)
				Sub Woofer (SW)	1.5 m (5 ft.)
MEDIUM	16 m^2	3.6 m	4.5 m	Front (F)	2.1 m (7 ft.)
				Center (C)	1.8 m (6 ft.)
				Surround (S)	1.5 m (5 ft.)
				Surr. Back (SB)	2.1 m (7 ft.)
				Sub Woofer (SW)	1.8 m (6 ft.)
LARGE	24 m^2	4.5 m	5.4 m	Front (F)	2.7 m (9 ft.)
				Center (C)	2.4 m (8 ft.)
				Surround (S)	2.1 m (7 ft.)
				Surr. Back (SB)	2.4 m (8 ft.)
				Sub Woofer (SW)	2.4 m (8 ft.)

部屋のサイズと床面積はおおよその目安の値です。

システムセットアップ

本機はリモコン及び本体のメニューボタンとカーソルボタン（▲, ▼, ◄ , ►）、***ENTER***（エンター）ボタン、***EXIT***（本体）、***MENU OFF***（リモコン）の操作によって様々な設定が可能です。
本体前面の表示部には、セットアップメニューシステムの設定内容が表示されます。

1. リモコンから操作する場合：リモコンの***AMP*** ボタンを押してリモコンをアンプモードにします。
2. 本体またはリモコンの***MENU*** ボタンを押して、セットアップメニューに入ります。リモコンの***ENTER*** ボタンを押してもセットアップメニューに入れます。
3. （▲）または（▼）の***カーソル*** ボタンを押して、メインメニューの項目を選びます。
4. ***ENTER*** を押して、希望するメニュー項目に入ります。
5. すべてのセットアップが完了した後、リモコンの***MENU OFF*** または本体の***EXIT*** ボタンを押してセットアップメニューを終了します。

1.INPUT setup（入力の設定）

本機に装備されている4系統のデジタル入力は、希望する入力ソースに割り当てることができます。

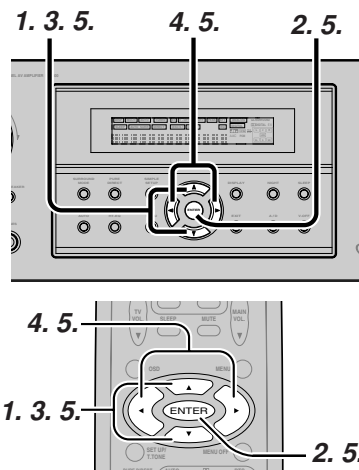
- **D1AUTO 〜 D4AUTO ：デジタルオートモード**

  選択している入力信号がデジタル信号の場合、本機は自動的にデジタル入力を選びます。

- **DIG.1 〜 DIG.4 ： デジタル固定モード**

  選択している入力信号に関わらず、本機はデジタル入力を選びます。

- **ANA ： アナログモード**

選択している入力信号に関わらず、本機はアナログ入力を選びます。

1. **(▲)または(▼)のカーソル ボタンを使用して、セットアップメインメニューの中から「1. INPUT」を選びます。**

2. ***ENTER* ボタンを押して、メニューに入ります。**

3. **(▲)または(▼)のカーソル ボタンを押して、入力ソースを選びます。**

4. **(◀)または(▶)のカーソル ボタンを押して、入力ファンクションを選びます。**
入力ソースに対して、「DxAUTO(デジタルオートモード)」、「DIG.x(デジタル固定モード)」または「ANA(アナログモード)」を選びます。

5. **これらのセットアップ(設定)が完了したら、(▲)または(▼)のカーソルボタンを押して「TO MAIN MENU」を選び、*ENTER* ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ります。**
(◀)または(▶)のカーソルボタンを押して「EXIT」を選び、*ENTER* ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

ご注意

- DTS-LDやDTS-CDの再生中は、このセットアップを利用できません。アナログ入力から発生する雑音を防ぐためです。
- 「DxAUTO（デジタルオートモード）」が選択され、DVD、CDまたはLDが再生中に早送りされた場合、デジタル入力信号が途切れてアナログ入力に切り替わることがあります。このような場合、デジタル固定モードに設定してください。
- 同じデジタル入力ファンクションは設定できません。このような場合、前の設定はアナログに設定されます。同じデジタル入力番号はデジタルオートモードとデジタル固定モードに設定できません。例えば、同時にD1AUTOとDIG.1は設定できません。

2.SPEAKER setup （スピーカーの設定）

PS4500を設置した後、全ての機器を接続し、スピーカーの配置位置を決定し、ご使用の部屋の環境やスピーカーの配置位置に対し、聴感上最適なスピーカーセットアップメニューの設定を行ってください。
設定を行う前に、以下の説明をよく読んでから行ってください。

2-1 SPEAKER SIZE

スピーカーのサイズをメニューを使って設定する時は、以下の項目を参照してください。

LARGE: 充分な低音再生能力をもった全帯域対応の大型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の全帯域をそのままスピーカーへ出力します。

SMALL: 低音が出にくい小型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の80Hz以下の低音域は、サブウーファー出力端子へ振り分けて出力されます。
（SUBWOOFER：NONEに設定した場合はフロントL/Rチャンネルへ振り分けて出力されます）

1. **(▲)または(▼)のカーソル ボタンを使用して、セットアップメインメニューの中から「2.SPEAKER」を選びます。**

2. ***ENTER* ボタンを押して、メニューに入ります。**

3. **(▲)または(▼)のカーソル ボタンを押して、スピーカーを選びます。**

4. **(◀)または(▶)のカーソル ボタンを押して、スピーカーのサイズを選びます。**

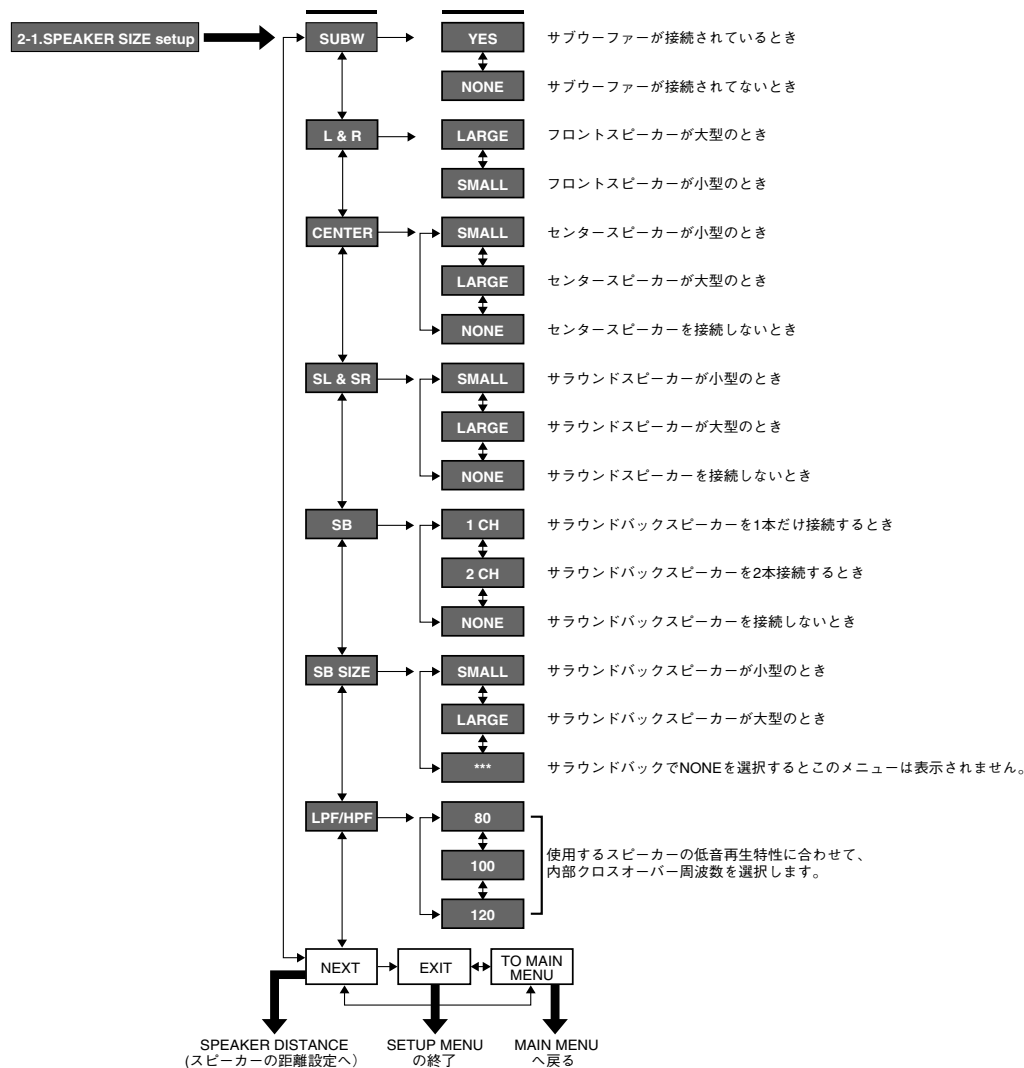
5. **これらのセットアップ(設定)が完了したら、▲または(▼)のカーソルボタンを押して「NEXT」を選びます。**

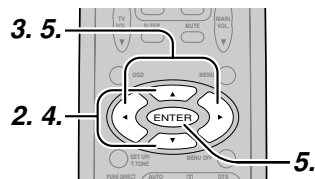
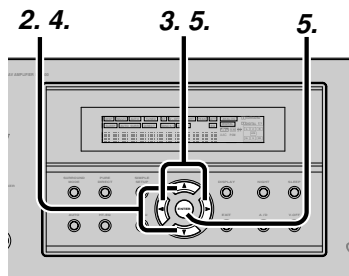
6. ***ENTER* ボタンを押すと、次の「Speaker Distance（スピーカーまでの距離）」のメニューに入ります。**

- (◀)または(▶)の**カーソル** ボタンを押して「EXIT」を選び、***ENETR*** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。
- (◀)または(▶)の**カーソル** ボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、***ENETR*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

ご注意

- サラウンドバックスピーカーを1本だけで使用する場合、SURROUND BACK L端子へ接続してください。

スピーカーセットアップのメニュー構成

2-2 SPEAKER DISTANCE
（スピーカーまでの距離の設定）

このセットアップ（設定）では、リスニングポジションから各スピーカーの距離を設定します。
ここで設定した距離に従い、各スピーカーからの音声の到達時間が同一になるようにディレイタイム（遅延時間）が設定されます。

1. **前のメニュー「Speaker Size（スピーカーのサイズ）」セットアップから「Speaker Distance（スピーカーまでの距離）」セットアップに入ります。**

2. **（▲）または（▼）のカーソルボタンを押して各スピーカーを選びます。**

3. **（◀）または（▶）のカーソルボタンを押して、リスニングポジションから各スピーカーへの距離を設定します。**

4. **距離の設定を完了したら、（▲）または（▼）のカーソルボタンを押して「NEXT（次）」を選びます。**

5. ***ENTER*** **ボタンを押して、次のメニュー「Speaker Level（スピーカーの出力レベル）」セットアップに入ります。**

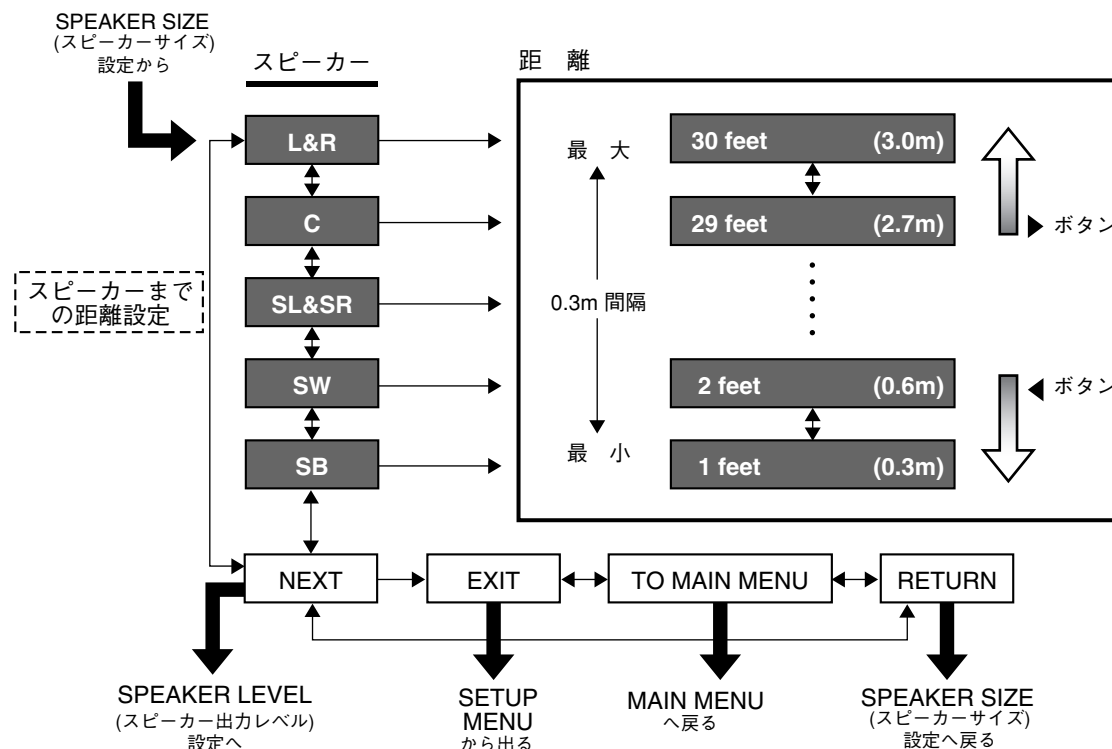
または、（◀ / ▶ ）のカーソルボタンを使い、以下のメニューを選びます。

- 「EXIT（出る）」：セットアップメニューから出る
- 「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」：セットアップメインメニューに戻る
- 「RETURN（戻る）」：「Speaker Distance（スピーカーまでの距離）」に戻る
  それから***ENTER*** ボタンを押すと、選んだメニューが実行されます。

L&R： フロントレフトとライトのスピーカーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する
C： センタースピーカーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する
SLR： サラウンドレフトとライトのスピーカーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する
SW： サブウーファーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する
SB： サラウンドバックのスピーカーからリスニングポジションまでの距離を0.3mから9mまで0.3m間隔で設定する

スピーカーディスタンスセットアップのメニュー構成

ご注意

- Speaker Size（スピーカーサイズ）メニューで「NONE」に設定したチャンネルのスピーカーは表示されません。

2-3 SPEAKER LEVEL
（スピーカーの出力レベル）

このセットアップ（設定）では、リスニングポジションにおいて各スピーカーからの音量が全て同じに聞こえるように、テストノイズ信号を用いて各スピーカーの出力レベルを設定します。

ご注意

- 7.1チャンネル入力モードやPure-Direct（ピュアダイレクト）モードでは、この設定はできません

TEST（テスト・トーン）モード：（◀）または（▶）の**カーソル**ボタンでテストトーンの発生モードを「MANU（マニュアル：手動）」または「AUTO（オート：自動）」に選びます

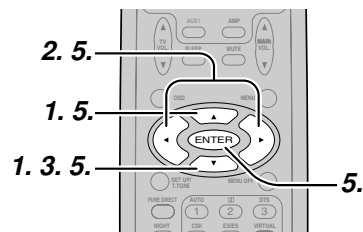
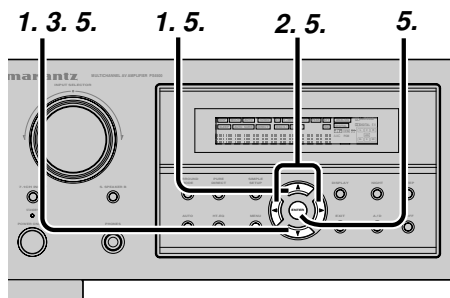
「AUTO（自動）」を選んだとき

（▼）ボタンを押し、「AUTO（自動）」を選ぶと、テストトーンの出力は、L（フロントレフト）→C（センター）→R（フロントライト）→SR（サラウンドライト）→SBL（サラウンドバックレフト）→SBR（サラウンドバックライト）→SL（サラウンドレフト）→SW（サブウーファー）→L（フロントレフト）の順番で、各チャンネル2秒間隔で循環します。

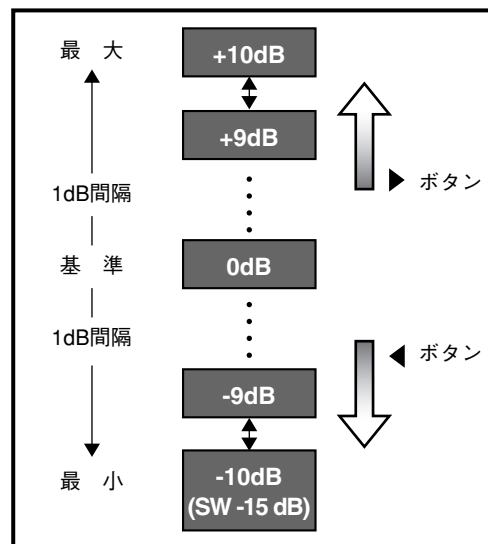
◀または▶の**カーソル**ボタンを使って、スピーカーからのノイズの音声レベルを調整し、全てのスピーカーに対して同じレベルにします。

- ***ENTER*** ボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、もう一度***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。
- （▲）または（▼）の**カーソル**ボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメニューを出ます。
- （◀）または（▶）の**カーソル**ボタンを押して、「RETURN（戻る）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、前のメニュー「SPEAKER DISTANCE（スピーカーまでの距離）」セットアップに戻ります。

「MANU（手動）」を選んだとき

「MANU（手動）」を選んで、各スピーカーの出力レベルを次のように調整します。

1. **（▲）または（▼）のカーソルボタンを押して「T.MODE」メニューで「MANU（マニュアル：手動）」を選びます。本機はフロントレフトスピーカーからピンクノイズを出力します。**

このときマスターボリュームの希望するレベルを調整します。このノイズのレベルを覚えて、▼のカーソルボタンを押します。本機はセンタースピーカーからピンクノイズを出力します。

2. **（◀）または（▶）のカーソルボタンを使ってフロントレフトスピーカーと同じレベルにセンタースピーカーからのノイズの音量レベルを調整します（－10から＋10dBの間を1dB間隔で調整できます）。**

3. **（▼）のカーソルボタンを再び押します。本機はフロントライトスピーカーからピンクノイズを出力します。**

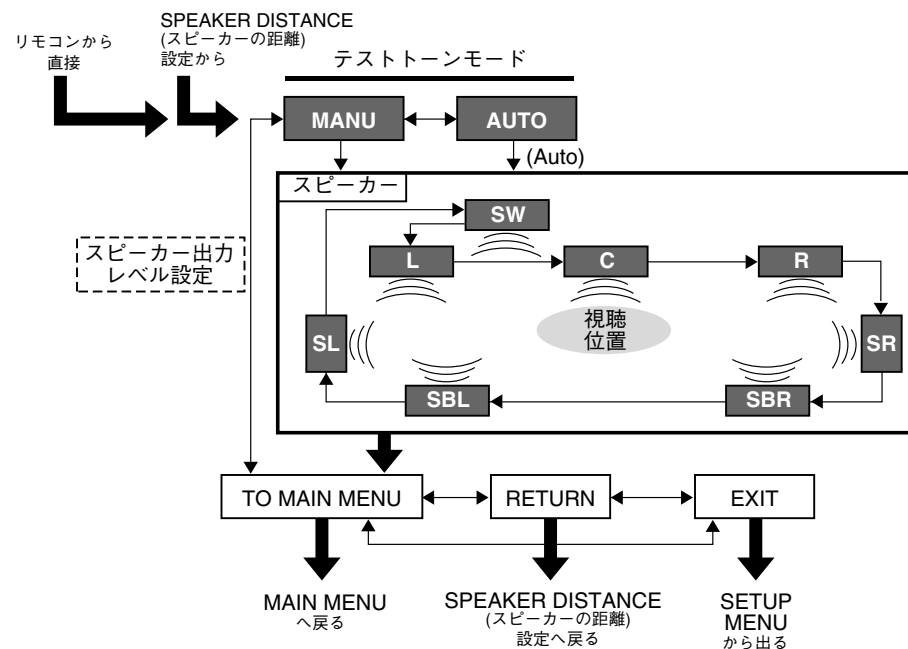
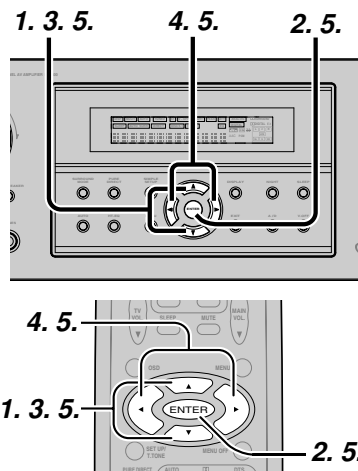
4. **全てのスピーカーが同じ音量レベルになるまで、フロントライトとその他のスピーカーに対しても2と3を繰り返します。**

5. ***ENTER*** **ボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、もう一度*ENTER* ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。**

- （▲）または（▼）の**カーソル**ボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメニューを出ます。
- （◀）または（▶）の**カーソル**ボタンを押して、「RETURN（戻る）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、前のメニュー「SPEAKER DISTANCE（スピーカーまでの距離）」セットアップに戻ります。

ご注意

- Speaker Size（スピーカーのサイズ）セットアップメニューで「NONE」を選ばれたスピーカーは表示されません。
- 各チャンネルに対するセットアップ（設定）レベルは全てのサラウンドモードにおいて再生されるよう記憶されています。
- 7.1チャンネル入力ソースに対してスピーカーレベルを調整するには、7.1Ch入力モードでリモコンの***CH.SEL***ボタンを押してレベルを調整してください。

スピーカーレベルセットアップのメニュー構成

3. PREFERENCE

1. ▲ または ▼ のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「3. PREFERENCE」を選びます。

2. ***ENTER*** ボタンを押します。

3. ▲ または ▼ のカーソルボタンで希望する項目を選びます。

4. ◀ または ▶ のカーソルボタンで調整します。

5. ▲ または ▼ のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

または、◀ または ▶ のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

STANDBY MODE : ECONOMY⇔NORMAL

ECONOMYを設定すると電源をスタンバイ状態にした場合の消費電力を低減することが可能です。
参考：スタンバイ消費電力
エコノミーモード ：約0.8W
ノーマルモード ：約1.5W

ご注意

スタンバイモードからの起動について
ノーマルモード：INPUT SELECTORノブを回すか、ENTERボタンを押してください。
エコノミーモード：ENTERボタンを押してください。

BASS MIX(バスミックス)

- BASS MIX（バスミックス）の設定は、フロントのスピーカーが「LARGE」に設定され、ステレオ再生時においてサブウーファーが「YES」に設定されているときにだけ有効となります。
- 「BOTH」が選ばれたとき、「LARGE」の低域周波数信号はそれらのチャンネルとサブウーファーから同時に出力されます。部屋のサイズや形によって、低域周波数の実際の音量が不足する場合にこの機能を使用しますと低域の周波数は部屋のいたるところにより均一に広がります。
- 「MIX」を選択すると、各チャンネルのスピーカーサイズに従ってサブウーファーからの出力が決まります。フロントスピーカーが「LARGE」に設定されている場合、サブウーファーチャンネルから再生される低域成分はドルビーデジタルやDTS処理された信号に含まれているLFE信号のみとなります。

フロントスピーカーが「SMALL」に設定されている場合、BASS MIX（バスミックス）設定は「MIX」に固定されます。この時、BASSMIX= ＊＊＊ と表示します。

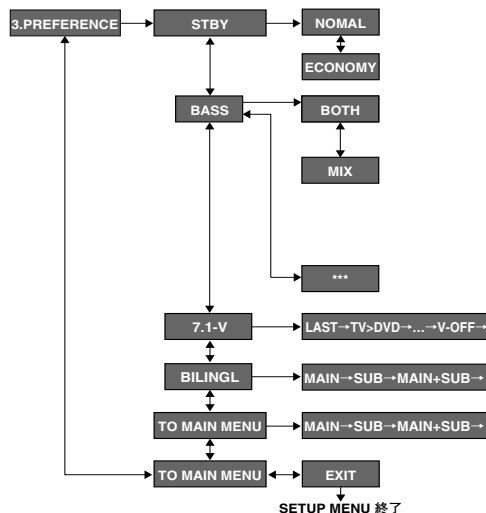
7.1-V（VIDEOインプット）

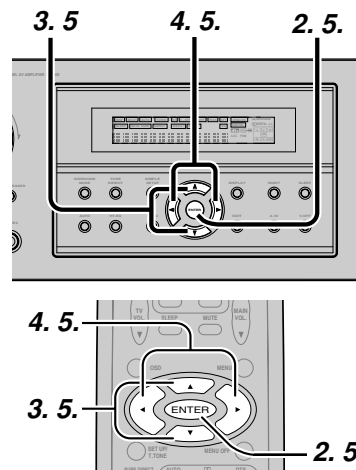
7.1CH INPUT を選択したときのビデオの設定ができます。
映像系入力端子のTV、DVD、VCR1、DSS/VCR2のほかに最後に選択したソースを選ぶ “LAST”、ビデオを選択しない “V-OFF” を選択することもできます。

BILINGAL（AACバイリンガルモード）

BSデジタル放送などのAAC信号入力において、2カ国語放送などの場合に再生する信号を選択します。

MAIN : 主音声のみをフロントL/Rチャンネルから再生します。
SUB : 副音声のみをフロントL/Rチャンネルから再生します。
MAIN+SUB : 主音声をフロントL，副音声をフロントRから再生します。

3.PREFERENCE → STBY → NOMAL ⇔ ECONOMY
BASS → BOTH ⇔ MIX / ***
7.1-V → LAST→TV>DVD→...→V-OFF→
BILINGL → MAIN→SUB→MAIN+SUB→
TO MAIN MENU → MAIN→SUB→MAIN+SUB→
TO MAIN MENU ⇔ EXIT
SETUP MENU 終了

4. SURROUND（サラウンド）

この設定ではサラウンドモードについて設定を行います。

1. ▲または▼のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「4. SURROUND」を選びます。

2. ***ENTER***ボタンを押します。

3. ▲または▼のカーソルボタンを押して、希望する項目を選びます。

4. ◀ または ▶ のカーソルボタンを使って、モードを選びます。

5. ▲または▼のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

- ◀ または ▶ のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

SURROUND MODE(サラウンドモード)

サラウンドのモードを選択します。

HT-EQ

HT-EQ(ホームシアターイコライザー)のON/OFFを切り替えます。HT-EQは本来劇場用に録音された映画のサウンドトラックを家庭で再生する際に、劇場の特性を忠実に再現するように補正を行うイコライザー機能です。

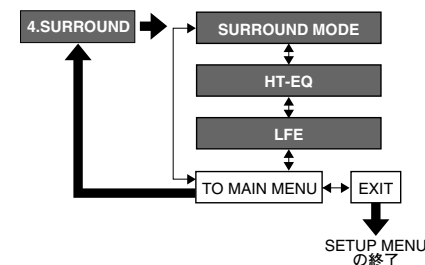
ご注意

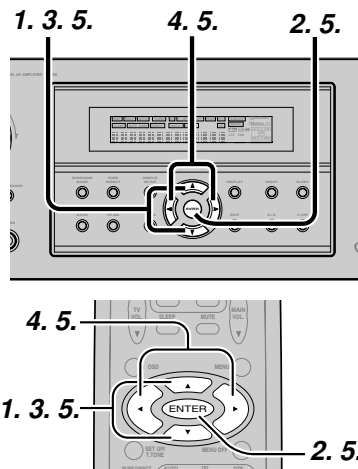
- サラウンドモードがPURE-DIRECT、7.1CH INPUT、VIRTUALの時は、この機能は無効となります。

LFE（Low Frequency Effectレベル）

お使いのスピーカーシステムと選んだサラウンドモードの組合わせにより、低音域の出力にて歪みを発生する場合があります。これは、Dolby Digital信号やDTS信号内のLFE レベルが大き過ぎるためです。この様な場合にLFE信号の再生レベルを以下のように設定することができます。

0dB ：LFE 信号は通常レベルで再生されます。（通常設定）
-10dB ： LFE信号の再生レベルを-10dB減衰します。
Off ： LFE 信号の再生を行いません。

▲または▼のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、OKボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

5. PLII（PRO LOGICII：プロロジックII）

このモードにおいて、本機は以下の通り、プロロジックIIにおける音場を細かく調整するための３つの設定があります。

1. ▲ または ▼ のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「5.PRO LOGICII」を選びます。

2. ***ENTER*** ボタンを押して、メニューに入ります。

3. ▲ または ▼ のカーソルボタンを押して、希望する項目を選びます。

4. ◀ または ▶ のカーソルボタンを押して、モードまたはレベルの設定を選びます。

5. ▲ または ▼ のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、***ENTER***ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

- ◀ または ▶ のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

PARAMETER : DEFAULT ⇔ CUSTOM

DEFAULT

標準設定を使用する場合に選択します。各設定が基本の固定値となります。

CUSTOM

各種処理の詳細をお好みに合わせて設定する場合に選択します。次の項目の調整をする場合は、こちらを選んでください。

PANORAMA

本機能をONにするとフロントの音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルに繋げるような印象になります。
▲ または ▼ のカーソルボタンでPANORAMAモードONまたはOFFを選びます。

DIMENSION

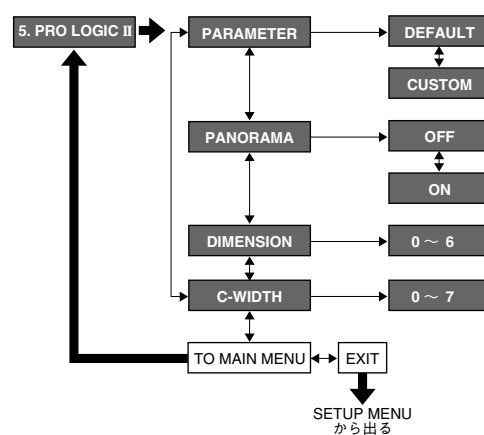
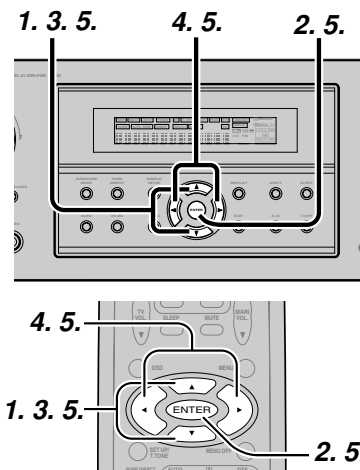
フロントとサラウンドのレベル差を調整する機能です。
入力ソースによってはフロントが強く出るもの、サラウンドが強く出るもの、と多様になるので、この機能で好みのバランスを得ることができます。
◀ または ▶ のカーソルボタンで0から6まで7段階でDIMENSIONを設定できます。

C（Center）WIDTH

センターチャンネルの成分を、徐々にフロントL／Rのスピーカーに振り分ける機能です。
センター成分を振り分けることで、スピーカー間の音色の不一致を緩和させることができます。
◀ または ▶ のカーソルボタンで0から7まで8段階で設定できます。
SPEAKER SIZE（スピーカーのサイズ）セットアップでセンタースピーカーに対して「NONE」を選択していると、この設定は表示されません。

ご注意

- センタースピーカーが「NONE」に設定されている場合、C.WIDTHは7に設定されます（C.WIDTH=***と表示されます）。

PRO LOGICIIセットアップのメニュー構成

6. CSII（CIRCLE SURROUNDII：サークルサラウンドII）

1. ▲ または ▼ のカーソルボタンでセットアップメインメニューの「6. CSII」を選びます。

2. ***ENTER*** ボタンを押して、このメニューに入ります。

3. ▲ または ▼ のカーソルボタンを押して、希望する項目を選びます。

4. ◀ または ▶ のカーソルボタンを押して、レベルを設定します。

5. ▲ または ▼ のカーソルボタンを押して、「TO MAIN MENU（メインメニューへ）」を選び、***ENTER***ボタンを押すと、セットアップメインメニューに戻ることができます。

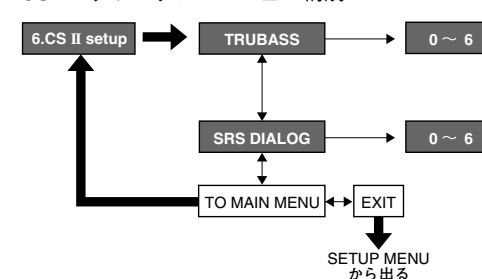
- ◀ または ▶ のカーソルボタンを押して、「EXIT（出る）」を選び、***ENTER*** ボタンを押すと、セットアップメニューから出ます。

TRUBASS

TRUBASSは、実際のスピーカーの低音再生能力より更に低い低音があたかも出ているような豊かな低音効果を得ることができます。
◀ または ▶ のカーソルボタンで0から6までの7段階で設定できます。

SRS DIALOG

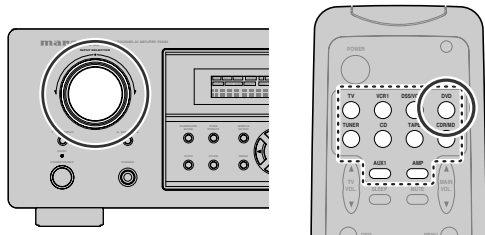
この機能を使うことにより、映画などでのセリフを明瞭にして、聞きやすくします。
◀ または ▶ のカーソルボタンで0から6までの7段階で設定できます。
SPEAKER SIZE（スピーカーのサイズ）セットアップでセンタースピーカーに対して「NONE」を選択していると、この設定は表示されません。

CSIIセットアップのメニュー構成

基本操作

この章におけるリモコン操作は、リモコンの動作モードをAMPにした状態で動作します。AMPモードにするにはリモコンの*AMP*ボタンを押してください。

入力ファンクションの選択

信号を再生する際は、まず初めに本体の入力ファンクションを選択する必要があります。

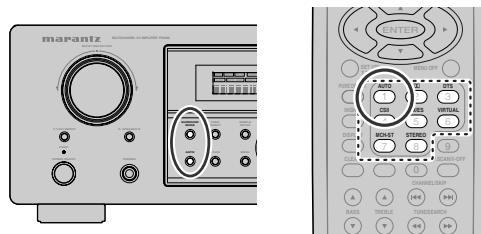
例）DVDからの信号を再生する。

1. **本体の*インプットセレクターをまわしてDVDを選択*、またはリモコンの*DVD*ボタンを続けて2回押します。**

2. **その後DVDプレーヤー側で再生を開始します。**

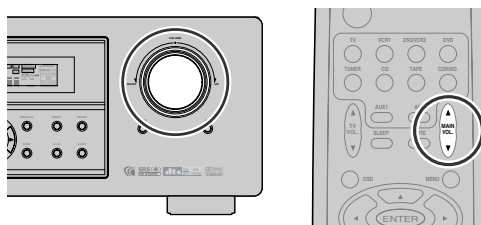
- 入力ファンクションを切り替えた際、前面表示部に選択したファンクション名が表示されます。
- 入力ファンクションごとにサラウンドモード、デジタル入力、アナログ入力などの前回の状態がメモリーされています。
- オーディオファンクション（Tuner、CD、Tape、CD-R、AUX）を選択した場合、ビデオ出力は最後に選択したVideo機器の状態を保持しています。
- ビデオ系のファンクションを選択した場合、Monitor OUT（モニターアウト）端子から選択した機器のビデオ信号が出力されます。

サラウンドモードの選択

入力ファンクションを選んだ後は、ご希望のサラウンドモードを選択します。
各サラウンドモードについては19ページのサラウンドモードの項を参照してください。

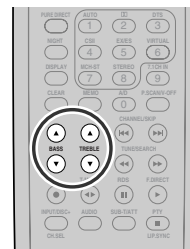
例）AUTOモードを選択する場合。

1. **本体の*AUTO*ボタンを押してAUTOモードを選択します。リモコンではAUTO(1)を押します。**
他のモードは本体では*SURROUND MODE*ボタンで順次選択できます。

他のサラウンドモードを選択する場合は、リモコンでは希望のサラウンドモードボタンを押してください。

音量を調整する

1. **本体の*VOLUME ダイヤル*を回すか、リモコンの*VOL*（＋）、（ー）*ボタン*を押してお好みの音量に調整します。**

- 音量を上げるにはVOLUMEツマミを右に回すか、リモコンのVOL（＋）ボタンを押して下さい。
- 音量を下げるにはVOLUMEツマミを左に回すか、リモコンのVOL（ー）ボタンを押して下さい。
- 音量調整時には本体前面表示部に調整レベルが表示されます。

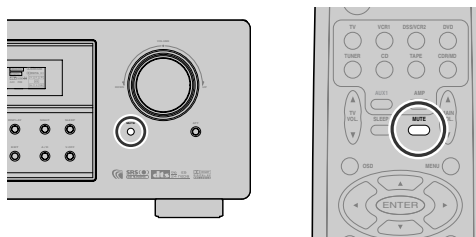
トーンコントロール

スピーカー音声出力のBASS（低音域）、TREBLE（高音域）の調整が各々調整可能です。それぞれ、+/ー 6段階まで調整ができます。

リモコンのBASS/TREBLEの▲/▼ボタンを押してお好みのレベルに調整してください。

ご注意

- トーンコントロールはサラウンドモード、再生状態、あるいは入力信号によっては使用できない場合があります。

ミュート機能

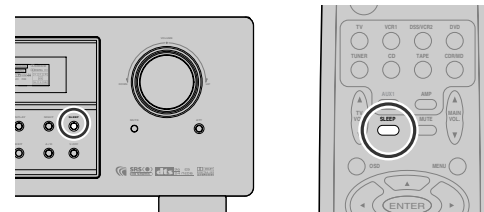
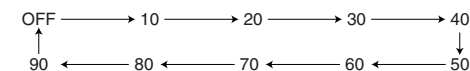
本機で再生動作をしているとき、一時的にスピーカーからの音声を消すことができます。

1. **本体の*MUTEボタン*またはリモコンの*MUTEボタン*を押します。音声出力が消えます。**

本体前面表示部にMUTEと表示されます。

2. **ミュートを解除したい場合は、再度本体もしくはリモコンの*MUTEボタン*を押します。**

音声が再び出力されます。またリモコンのボリュームコントロールによってもミュートは解除されます。

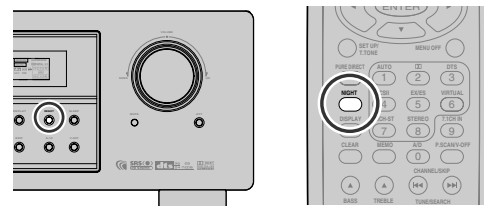
スリープタイマーを使う

設定した時間になると自動的に電源がスタンバイ状態になる機能です。最大90分まで設定可能です。

1. **本体またはリモコンの*SLEEPボタン*を押します。押すごとに前面表示部の設定時間表示が次ぎのように変わります。**

2. **ご希望の時間を表示したら、約２秒間お待ちください。スリープタイマーがセットされます。**

前面表示部内のSLEEPが点灯します。

3. **スリープタイマーを解除したい場合は、上記の手順1.と2.を行ってOFFを選択してください。**

ナイトモード

夜間などに再生音のダイナミックレンジを押さえて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。この機能はリモコンにて切り替えを行います。
ナイトモードの効果は、ドルビーデジタルのソフトによって設定されいます。この機能に対応していないソフトには効果がない場合があります。

1. **本体またはリモコンの*NIGHTボタン*を押します。**

本体前面表示部内のNIGHTが点灯します。

2. **ナイトモードを解除したい場合は、再度本体またはリモコンの*NIGHTボタン*を押します。**

本体前面表示部内のNIGHTが消えます。

サラウンドモードについて

本機は以下のような多種のサラウンドモードを持っております。再生するソースやお好みに応じて各種モードを使い分けることが可能です。
入力ファンクションごとにこれらのサラウンドモードはメモリーされます。
入力信号によって各サラウンドモードの再生状態が変わります。（サラウンドモード/入力信号対応表を参照）

AUTO（オート　サラウンド）

入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的に再生状態を切り替えます。
ドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビーサラウンド、DTS、DTS-ES、AAC、PCM、96kPCMなどの信号フォーマットを検出してそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
基本的に、入力信号がPCM信号の場合はSTEREO再生を行います。ドルビーデジタルやDTS、AACの場合それぞれのチャンネル数に応じた再生を行います。

DD モード

（DOLBY DIGITAL, PRO LOGICⅡx－Movie、Music、Game、PRO LOGIC）
プロロジックⅡxモードは、サラウンドバックチャンネルが追加され、さらに包囲感を得られます。プロロジックⅡxモードでは、Movie（ムービー）モード、Music（ミュージック）モード、Game（ゲーム）モードとプロロジック互換モードの4種から選択できます。リモコンのDDボタン（2）を押して選択してください。

PRO LOGICⅡx-Movieモードは映画再生にパラメータを最適化したものです。ドルビーサラウンド・エンコード作品は、このモードで視聴するとより効果的です。

PRO LOGICⅡx-Movieモードは、音楽再生に最適化したパラメータを持たせております。サラウンドchは定位よりも包囲感が得られるチューニングになっています。このモードは通常のステレオ録音された音楽などを再生するときに用いることができます。Musicモードではお好みに合わせて各種パラメーターを調整することが可能です。（ PLⅡミュージックパラメーター 設定の項17ページ参照）

PRO LOGICⅡx-Gameモードは、ゲームソフト特有の特殊音再生にパラメーターを最適化したものです。低音域の強化によりインパクトのある音場を再生します。

PRO LOGICモードは従来のプロロジック再生互換があります。ドルビーサラウンド録音ソースに対しそのまま忠実なデコードをします。

ご注意

- 本モードでは、ドルビーデジタルEX信号が入力されるとPLIIx-MOVIEまたはPLIIx-MUSIC再生します。
  EX再生をする場合はEX/ESモードを選んでください。
- SPEAKER SETUP（スピーカーの設定）でサラウンドバックスピーカー（SURR. BACK）をNONEに設定している時は、プロロジックII xモードの再生できません。このときは、プロロジックII モードの再生になります。
  SPEAKER SETUPについては、13ページを参照してください。

DTS モード
（DTS、NEO:6-CINEMA、NEO:6-MUSIC）

DVDなどのdts5.1ch信号入力に対してはそのまま再生します。
2ch信号入力（アナログ信号入力を含む）に対してはNeo:6-Cinema、Neo:6-Musicの選択が可能です。リモコンの***DTS***ボタン（3）を押して選択してください。
dts-Neo:6は２チャンネル記録された入力信号から６チャンネルのフルバンドチャンネルを再生します。
Neo:6-Cinema（シネマ）とNeo:6-Music（ミュージック）の2種類のマトリックス・モードが選択できます。
Neo:6-Cinema はサラウンド・エンコーディングされた映画のサウンド・トラック用のマトリックス・モードでVTR等の2chソースから6.1chのサラウンド再生が可能です。
Neo:6-Music は従来のステレオ音楽を6.1chにて再生するためのマトリックス・モードです。

ご注意

- 本モードでは、dts-ES信号が入力されてもES（6.1ch）再生はしません。ES再生をする場合はEX/ESモードを選んで下さい。
  Neo:6再生は各種2ch信号入力時にのみ選択できます。

EX/ES

ドルビーデジタル5.1ch、AAC-5.1chの場合、一度5.1chデコードをした後にマトリクス処理を行うことで、サラウンドバック信号を付加します。
ドルビーデジタルEX処理が行われ記録された入力信号では、サラウンド空間再生の定位感が向上します。
しかし、サラウンドEX　処理が行われていない5.1ch信号に対しては不自然な定位再生になることがあります。
（詳しくはDVDのパッケージなどを参照して、本モードに切り替えてください）
DTS-ES信号入力の場合、信号内に記録された判別信号によってDiscrete-6.1、 Matrix-6.1の再生方式を切り替えてDTS-ES処理を行います。通常の5.1ch-DTS信号入力の場合、一度5.1chデコードをした後にMatrix-6.1処理を行いサラウンドバック信号を付加します。

ご注意

- 入力信号にL、R独立したサラウンド信号成分が記録されている場合に有効です。よってPCM信号、アナログ信号などの入力時はこのモードは使用できません。
  また、セットアップのスピーカー設定にてサラウンドバックスピーカーを使用している設定の場合にのみ有効です。サラウンドバックスピーカーを使用しない設定の場合、このモードは使用できません。

CSⅡ（サークルサラウンドⅡ）

通常のVTRやCDなどのステレオやモノラル等、あらゆる素材を6.1ch音場再生することができるモードです。
CSⅡ-CinemaとMusicおよびMonoの３種類のモードがあります。リモコンの***CS-II*** ボタン（4）を押して選択してください。
CSⅡ-Cinema（シネマ）
映画などのサウンド・トラック用の再生に適したモードでVTR等の2chソースから6.1chのサラウンド再生が可能です。
CSⅡ-Music（ミュージック）
CDなど従来のステレオ音楽を6.1chにて再生するのに適したモードです。
CSⅡ-Mono(モノ)
モノラル録音された映画素材やTV放送でさえも、6.1ch再生を可能にします。

またCSⅡモードではお好みに合わせて各種パラメーター（Trubass、SRS DIALOG）を調整することが可能です。（ CSⅡパラメーター 設定の項参照）

ご注意

- CSII再生は各種2ch信号入力時にのみ選択できます。

MULTI-CH. STEREO
（マルチチャンネル・ステレオ）

2ch　信号入力に対して独自の処理を行いマルチチャンネル（6.1ch）再生をします。
5.1ch信号入力に対してはそのまま再生します。

VIRTUAL （バーチャル）

2本のフロントスピーカーだけで、あたかもサラウンドスピーカーがあるようなサラウンド効果を再現します。
ドルビーデジタル、DTSやAACのマルチチャンネルソースにヴァーチャル処理を行い再生します。また2ch信号入力に対しては一度サラウンド処理を行った後にヴァーチャル再生を行います。

STEREO　（ステレオ）

入力信号のチャンネル数に関わらずステレオ再生を行います。このモードでは5.1ch信号（ドルビーデジタル、DTSやAAC）が入力されている場合でも、フロントL/Rだけの再生となります。

PURE-DIRECT（ピュア　ダイレクト）

スピーカー設定などによる周波数フィルターやディレイ、トーンコントロールなどの付加処理をバイパスします。よって入力信号を最短処理にて出力します。またアナログ信号入力時にはデジタル部の処理を停止して、高周波クロックなどの影響を最小限にします。

ご注意

- このモードを選択すると、内部的にセットアップメニューのSPEAKER SIZEにおける各スピーカーの設定がすべてLARGEおよびSubWoofer=YESの設定状態で再生されます。
  またトーンコントロール、HT-EQなどの処理はすべて無効となります。
- このモードを選択するとS（SURROUND）SPEAKER Bは動作しません。

デジタル信号入力に関して

本機とDVDプレーヤーなどをデジタル信号接続により使用している場合、プレーヤーによってはスキップ動作や音声切り替えなどを行ったときに、音声が途切れたり、音声出力が遅れることがあります。これは有害なノイズの発生を防ぐ為であり故障ではありません。

DOLBY SURROUND EX 信号に関する注意

ドルビーデジタルEX再生はデジタル入力時のみ可能です。
ドルビーサラウンドE X 処理が行われたソースの再生にはEX/ESモードの使用を推奨します。
自動的にドルビーデジタルEX再生に切り替わらない場合、ＤＶＤのジャケットの表記などを参照の上、EX/ESモードに切り替えてください。
これはDVD内にSurround EX判別用信号が正確に記録されていない場合があるためです。

96kHz PCM信号に関する注意

96kHz PCM信号入力時はAUTO、STEREO、PURE-DIRECTが選択可能です。
DVDプレーヤーによっては96kHz PCM信号のデジタル出力に対応していない場合があります。詳しくはお使いのDVDプレーヤーの取扱い説明書をご覧ください。
ＤＶＤディスクによっては著作権保護のため、96kHz PCM信号のデジタル出力を禁止している場合があります。

DTS信号に関する注意

DTS信号の再生はデジタル入力時のみ可能です。
DTS-CDやDTS-LDを再生する場合、プレーヤーのアナログ音声出力からノイズが出力されていることがあります。必ずプレーヤーのデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してご使用ください。
上記ノイズ出力の理由により、本機でDTS-CDやDTS-LDを再生中は、デジタル、アナログ入力の切り替え動作などを禁止している場合があります。一度プレーヤー側をSTOP状態にしてから行ってください。

サラウンドモード / 入力信号対応表

サラウンドモード	入力信号	再 生	出力チャンネル L/R	C	SL SR	SBL SBR	SubW	前面表示 信号フォーマット表示	プログラムチャンネル表示
AUTO	Dolby Surr. EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D(2ch)	Dolby Digital 2.0	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	○	○	○	○	★	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS 96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM(Audio)	PCM (Stereo)	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (96kHz Stereo)	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	○	-	-	-	-	AAC	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	-	ANALOG	-
PURE-DIRECT	Dolby D Surr. EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	○	○	○	○	★	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS 96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (96kHz Stereo)	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	○	-	-	-	-	AAC	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	-	ANALOG	-
EX/ES	Dolby D Surr. EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS(5.1ch)	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC EX	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
DOLBY (PL IIx movie) (PL IIx music) (PL IIx game) (Pro Logic)	Dolby D Surr. EX	Dolby Digital 5.1	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	★	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	★	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	★	PCM	L, R
	AAC (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	○	★	AAC	L, R
	Analog	Pro Logic IIx	○	○	○	○	★	ANALOG	-
DTS (Neo:6 Cinema) (Neo:6 Music)	DTS-ES	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS 96/24	○	○	○	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	Neo:6	○	○	○	○	★	PCM	L, R
	Analog	Neo:6	○	○	○	○	★	ANALOG	-
	Dolby D (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	★	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Neo:6	○	○	○	○	★	DD DIGITAL, 2 SURROUND	L, R, S
	AAC (2ch)	Neo:6	○	○	○	○	★	AAC	L, R
CS II Cinema CS II Music CS II Mono	PCM (Audio)	CS II	○	○	○	○	○	PCM	L, R
	Analog	CS II	○	○	○	○	○	ANALOG	-
	Dolby D (2ch)	CS II	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	CS II	○	○	○	○	○	DD DIGITAL, 2 SURROUND	L, R, S
	AAC (2ch)	CS II	○	○	○	○	○	AAC	L, R
STEREO	Dolby Surr. EX	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Stereo	○	-	-	-	★	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Stereo	○	-	-	-	★	DDDIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	Stereo	○	-	-	-	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Stereo	○	-	-	-	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	Stereo	○	-	-	-	★	PCM	L, R
	PCM 96kHz	Stereo	○	-	-	-	★	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	Stereo	○	-	-	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Stereo	○	-	-	-	★	AAC	L, R
	Analog	Stereo	○	-	-	-	★	ANALOG	-
Virtual	Dolby Surr. EX	Virtual	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Virtual	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Virtual	○	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Virtual	○	-	-	-	-	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	Virtual	○	-	-	-	-	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	Virtual	○	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	Virtual	○	-	-	-	-	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	Virtual	○	-	-	-	-	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Virtual	○	-	-	-	-	AAC	L, R
	Analog	Virtual	○	-	-	-	-	ANALOG	-
Multi Ch. Stereo	Dolby Surr. EX	Dolby Digital EX	○	○	○	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	-	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Multi Channel Stereo	○	○	○	○	★	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Multi Channel Stereo	○	○	○	○	★	DD DIGITAL, DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	-	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	Multi Channel Stereo	○	○	○	○	★	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	-	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Multi Channel	○	○	○	○	★	AAC	L, R
	Analog	Multi Channel Stereo	○	○	○	○	★	ANALOG	-

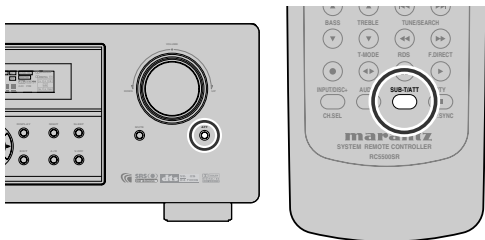
- Dolby Digital (2ch Surr) :
  ドルビーサラウンド処理されたドルビーデジタル2ch信号
- ★ : サブウーファー他のスピーカーのLarge/Smallによってサブウーファー出力は異なります。

L/R : フロントスピーカー
C : センタースピーカー
SL/SR : サラウンドスピーカー
SBL/SBR : サラウンドバックスピーカー
SubW : サブウーファースピーカー

その他の機能

この章におけるリモコン操作は、リモコンの動作モードをAMPにした状態で動作します。AMPモードにするにはリモコンのAMPボタンを押してください。

アッテネート機能

アナログ信号入力を本機にて再生しているとき、前面表示部のPEAK表示が点灯する場合があります。これは、本機の内部処理に対して入力信号レベルが大きすぎることを意味します。このときアッテネート機能によってアナログ入力信号レベルを減衰させることができます。

- この機能は、アナログ入力が選択されている場合に有効です。
- この機能は、各入力ファンクションごとにメモリーされます。例えば、CDを選択しアッテネート機能を設定して、他の入力に切り替えた後、再びCDを選択したときに、アッテネート機能は有効になっています。

1. 本体またはリモコンの*ATT* ボタンを押します。

本体前面表示部のATT表示が点灯し、動作状態を表します。アナログ入力信号レベルがおよそ半分に減衰されます。

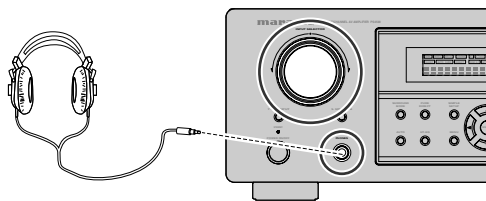
2. アッテネート機能を解除したい場合は、再度*ATT* ボタンを押します。

ATT表示が消えます。アナログ入力信号レベルがもとに戻ります。

ヘッドホンで聞く

本機は「TruSurroundヘッドホン」機能を搭載しています。夜間に大きな音で映画や音楽を楽しめない方のために、マルチチャンネルの立体音響をヘッドホンで体感できるように開発されたのが「TruSurroundヘッドホン」です。
ヘッドホンの標準ステレオジャックを本機前面のPHONES端子に接続します。
ヘッドホンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。
サラウンドモードは自動的にステレオモードになり、PURE-DIRECTも選択可能です。また、このとき本体の***SURROUND MODE***ボタンを押すことでモードをSTEREOとTruSurround(TS)を切り替えることができます。
深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンの使用をお勧めします。

ご注意

- ヘッドホンをPHONES端子から外すと、ヘッドホンを接続する前に設定していたサラウンドモードに戻ります。

⚠ 警 告

ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくならないように注意してください。

V-OFF（ビデオ出力OFF）機能

この機能は、各映像出力端子（Video、S-Video、コンポーネントビデオ）の出力を停止します。この機能によりビデオ信号の内部処理を停止し、オーディオ系への不要な干渉を低減させます。

1. 本体またはリモコンの*VIDEO-OFF* ボタンを押します。

本体前面表示部のV-OFF表示が点灯し、動作状態を表します。

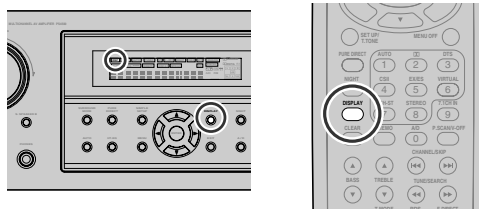
2. ビデオ出力Offを解除したいときは、再度このボタンを押します。

ご注意

- この機能は映像信号用端子、VCR1 OUT、VCR2 OUTに対して有効です。

ディスプレイモード

本体前面表示部の 表示動作モードを選択できます。

入力表示モード：
選択した入力ファンクション状態を表示します。
サラウンド表示モード：
選択したサラウンドモード状態を表示します。
Auto Display Off：
本機の操作をしたときに、5秒間表示した後 消灯します。
Display Off：
常に消灯した 状態です。

1. 本体の*DISPLAY* ボタンまたはリモコンの*DISPLAY* ボタンを押します。

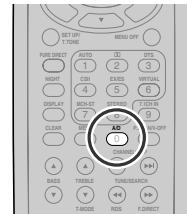
これらのボタンを押すごとに、表示動作状態が順番に切り替わります。

ご注意

- Display Off 状態では、本体表示部のDISP表示だけはこの機能が動作状態であることを表すために点灯します。

入力モード切り替え

デジタル入力を設定したファンクションを選んでいる場合、以下の入力モードを一時的に切り替えることが可能です。

Digital-Auto： デジタル信号が約1.5秒以上入力されない場合、自動的にアナログ信号入力へ切り替えます。
Digital： デジタル入力に固定されます。
Analog： アナログ入力に固定されます。

1. リモコンの*A/D* ボタンを押します。

ボタンを押すごとに、入力モードが順番に切り替わります。

ご注意

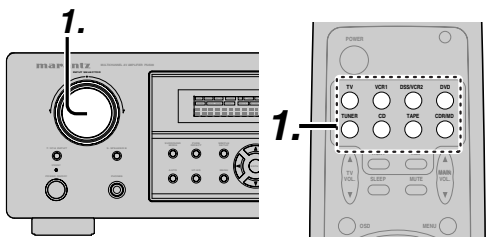
- ここで選択した入力モードは一時的な設定です。入力ファンクションを切り替えたり、スタンバイにした後は、セットアップメインメニューで設定した入力設定に戻ります。

録音・録画をする

カセットテープ、CD-R、MDに アナログ信号で録音する

本機を操作してカセットテープ、CD-R、MDなどに録音することができます。このため本機はTAPE OUT端子、CD-R/MD OUT端子を装備しております。

例： 現在 CD入力にてCDを再生して聴きながら、TAPE にアナログ録音をする場合。

（既に接続例のようにアナログ信号も接続されている状態）

1. **本体のインプットセレクターまたはリモコンの入力ファンクション切り替えボタンを押して、CDの入力を選択します。**

2. **カセットデッキの入力設定（レベル設定など）をおこない、録音スタンバイ状態にします。**

詳細はカセットデッキの取扱説明書をご覧ください。

3. **カセットデッキ録音状態にします。**

4. **CDプレーヤーを再生します。**

録音が開始されます。

ご注意

- デジタル信号入力だけの接続の場合、TAPE OUT、CD-R/MD OUT端子への出力が得られません。録音機能を使用する場合は、アナログ信号入力の接続も行ってください。
- TAPE OUT端子、CD-R/MD OUT端子には、常に本機が再生状態にある機器からの入力信号が出力されます。例えばDVDを選択して再生している場合、これらの端子には本機のDVDアナログ入力端子への入力信号が出力されます。

ビデオデッキに録画/録音する

本機を操作してビデオデッキなどに録画することができます。このため本機はVCR1 OUT端子、VCR2 OUT端子を装備しております。

例：現在 TV入力を選択して、ビデオテープレコーダーにTV入力信号をアナログ録画/録音する場合。

（既に接続例のようにアナログ信号も接続されている状態）

1. **本体またはリモコンの入力ファンクション切り替えボタンを押して、TVの入力を選択します。**

2. **ビデオテープレコーダーの入力設定をおこない、録画スタンバイ状態にします。**

詳細はビデオテープレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

3. **ビデオテープレコーダーを録画状態にします。**

録画/録音が開始されます。

ご注意

- 音声信号がデジタル信号だけの接続の場合、VCR1 OUT、VCR2 OUT端子の音声信号の出力が得られません。録音機能を使用する場合は、アナログ信号の接続も行ってください。
- VCR1 OUT端子（音声L/R、VIDEO、S-VIDEO）、VCR2 OUT端子（音声L/R、VIDEO）これらの端子には、常に本機が再生状態にある機器からの入力信号が出力されます。例えば、TVを選択して再生している場合、これらの端子には本機のTV（VIDEO、S-VIDEO、アナログ音声）入力端子への入力信号が出力されます。
- VCR1およびDVDの映像入力端子はそれぞれビデオとS-ビデオがあります。
  これはビデオ入力をS-ビデオのモニター出力に出したり、その逆もできます。映像機器に合わせて使い分けてください。

CD-R、MDなどにデジタル信号で録音する

本機はデジタル録音用のDIGITAL OUT端子としてピンプラグ(COAXIAL)形式と光形式(OPTICAL)を装備しております。
デジタル出力端子には入力ファンクション選択ボタンで選んだ機器からのデジタル信号入力が出力されます。ただし選択した入力ファンクションが、デジタル信号入力の設定をされていない場合は、出力されません。

例：現在DVD：DIG3入力にてDVDを再生しながら、MDにデジタル録音をする場合。

（既に接続例のようにデジタル信号が接続されている状態）

1. **本体またはリモコンの入力ファンクション切り替えボタンを押して、DVDを選択します。**

既にDIG.3はDVDに設定済みとします。

2. **CD-RまたはMDプレーヤーのデジタル入力設定を行い、録音スタンバイ状態（シンクロREC等）にします。**

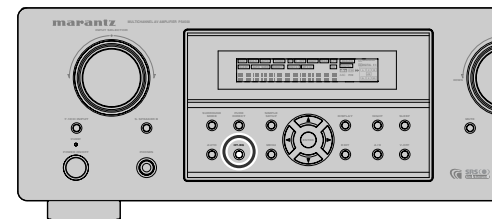
詳細は、CD-RまたはMDプレーヤーの取り扱い説明書をご覧ください。

3. **DVDプレーヤーを再生します。**

録音が開始されます。

HT-EQ（ホームシアターイコライザー）

映画館ではフロントL/Rおよびセンタースピーカーがスクリーンの後ろにあるため、通常の映画ソフトはスクリーンでの減衰を見込んで高域を強調した録音となっています。このような映画ソフトを家庭で再生した場合、映画館とは異なった信号特性となってしまいます。
本機では、映画館とホームシアターとの差異を補正するHT-EQ（ホームシアター・イコライザー）を搭載し、映画館と同等特性の再生をご家庭でお楽しみいただけます。
この機能は次のモード以外のとき有効です。

- PURE-DIRECT
- 7.1CH INPUT
- VIRTUAL

1. **本体の*TH-EQ ボタン*を押します。**

本体前面表示部のEQが点灯し、ホームシアターイコライザーが働きます。

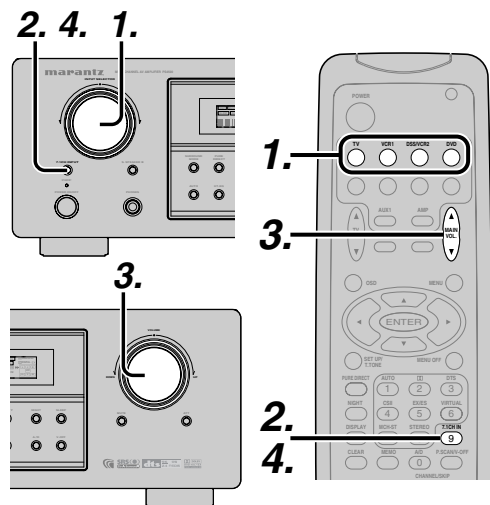
2. **この機能を解除するには、再度本体の*TH-EQ ボタン*を押します。**

本体前面表示部のEQが消灯し、ホームシアターイコライザーが解除されます。

7.1CH INPUT

マルチチャンネルSACDプレーヤーやDVD-Audioプレーヤーなどのマルチチャンネル信号に対応するための7.1chの外部入力端子が搭載されています。これらの入力信号は内部サラウンド処理をバイパスしてボリュームコントロールを通過した後、プリアウト端子へ出力および内部アンプに入力されます。(SubW入力はプリアウトのみ)
この機能が働いているときは、入力ファンクションを切り替えることができません。この機能に合わせて楽しみたいビデオ系の入力ファンクションを選択してから7.1CH INPUTボタンを押してください。

1. 本体またはリモコンでご希望のビデオソース(入力ファンクション)を選択します。

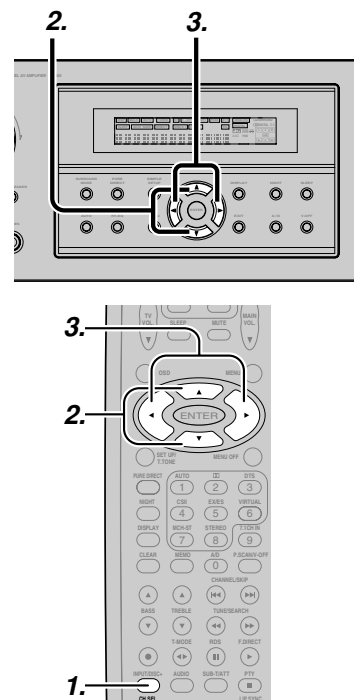
2. 本体またはリモコンの *7.1CH INPUT (7.1CH-IN)* ボタンを押します。

もし7.1CH INPUTの各チャンネルの音量バランスを調整したい場合はリモコンのCH.SELボタンを押して7.1CH INPUT LEVELで調整してください。

3. 本体の *VOLUME* ツマミを回すか、リモコンの *VOL* (▲)、(▼) ボタンを押して、全体の音量をお好みのレベルに合わせてください。

4. 7.1CH INPUTを解除する場合は、再度本体またはリモコンの *7.1CH INPUT (7.1CH-IN)* ボタンを押します。

ご注意
- 7.1CH INPUTを選択しているとき、サラウンドモードは選択できません。また7.1CH INPUTを選択しているときは、録音出力端子には信号は出ません。
- 7.1CH INPUTを選択しているときはS (SURROUND) SPEAKER Bは出力されません。

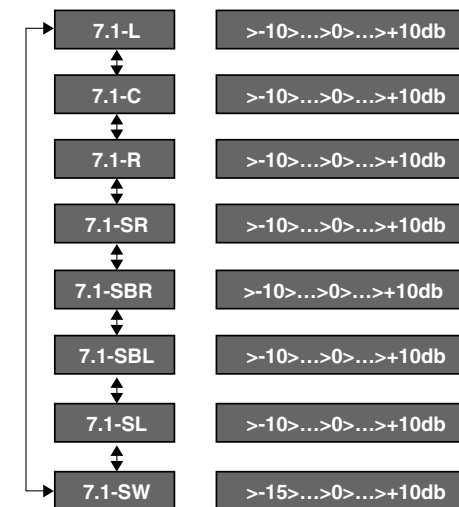
7.1CH INPUT LEVEL

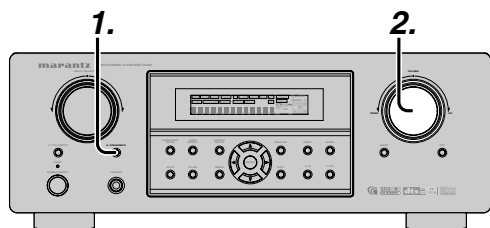
7.1CH INPUTを選択したときの音量を調整する機能です。

1. 7.1CH INPUTモードを選択した状態でリモコンの *CH.SEL* ボタンを押します。

2. リモコンまたは本体のカーソルボタン(▲、▼)で希望のチャンネルを選択します。

3. ◀または▶ボタンで音量レベルを調整します。

ご注意
- 何も操作をせずに約5秒経過するとレベル調整モードは終了します。
- この設定は7.1CH.INPUTモードに記憶されます。

7.1CH インプットセットアップのメニュー構成

S.(SURROUND) SPEAKER Bについて

S.SPEAKER Bは、本機のスピーカー出力端子(SURROUND BACK/S.SPEAKER B)を使用します。これらの端子をサラウンドバックとしてご使用にならないときに、S.SPEAKER Bとしてフロント L/Rと同じ出力が出ます。
この機能はスピーカーのBi-Wire駆動に使ったり、メインスピーカーと別のエリア(場所)で音楽を再生する等、ライフスタイルに合わせて使い分けることが可能です。

1. **本体の*S.SPEAKER B*ボタンを押します。表示部に"SPKR B"が表示されます**

2. **ボリュームを調整します。**

ご注意

- この機能はセットアップメニューシステムのスピーカーセッティングでSB(Surround Back)を"NONE"に設定したときに使用できます。SB(Surround Back)を"NONE"以外に設定しているときにS.SPEAKER Bボタンを押すと"The Surr. Back Speakers are in use"と表示して選択することはできません。
- S.SPEAKER Bの音量はメインのフロントL/Rと連動します。
- この機能は7.1CH INPUTモードを選択したときは動作しません。
  また、アナログ信号を入力してこの機能を使用しているときはPURE-DIRECTモードは選択できません。

リモコンについて

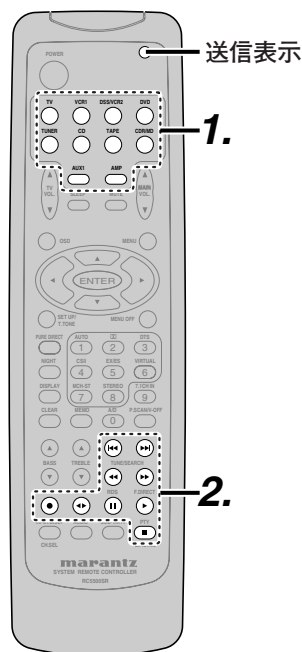
リモコンの操作について

本機のリモコンにはマランツ、フィリップスのDSS、DVD、TV、VCR、AUX、TUNER、CD、TAPE、CD-R/MD、AMPの計11種類のRC-5方式リモコンコードがプリセットされています。RC-5を採用しているマランツやフィリップスの機器を操作できます。

1. **ファンクションボタンを1回押します。**

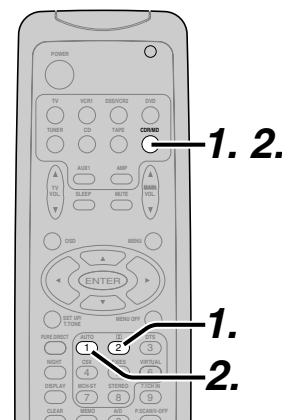
ファンクションボタンを1回押すと、リモコン自体が押されたファンクションモードに変更されます。
ファンクションボタンを2回押すと、本機が押されたファンクションモードに変更されます。

2. **各ボタンを押して、接続された機器を操作します。**

リモコンコードが送信されている間は送信表示が点灯します。

CD-RとMD機能切り替え

本機のリモコンは、CD-RとMDの機能を切り替えることができます。初期状態は、CD-R機能となっています。

1. **MD機能に切り替えるには、*CDR/MD* ボタンを押しながら、10キーボタンの 2 を押します。**

2. **CD-R機能に切り替えるには、*CDR/MD* ボタンを押しながら、10キーボタンの 1 を押します。**

リモコンの設定変更について

本機のリモコンは、マランツやフィリップスの機器を操作できるように初期状態で設定されています。本機に接続された他社の機器を操作できるように変更するには2つの方法があります。

- ４桁のコードを入力する方法
- リモコンから送信される信号を順次変更し、目的の信号を見つける方法

ただし、*AMP* ボタン、*AUX* ボタンと*TUNER* ボタンは変更できません。

ご注意

- お持ちの機器によっては本機のリモコンのセットアップコードが合わないことがあります。その場合、本機のリモコンではお持ちの機器を操作できません。

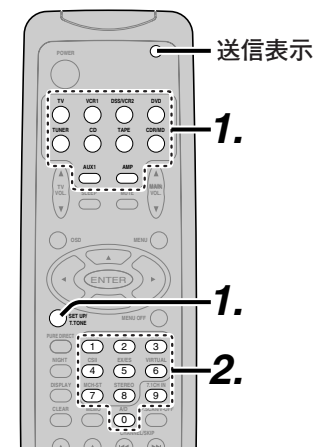
コード入力による変更

４桁のコードを入力し、リモコンから送信される信号を変えることができます。簡単に行えるため、コード入力方法で変更することをお勧めします。

1. **送信表示が 2回点滅するまで、変更したいファンクションボタンを押しながら、*SETUP* ボタンを押します。**

2. **10キーボタンを使い 4桁のコードを入力します。**

※入力する4桁のコードは、本書最後にある「セットアップコード」表を参照してください。

コード入力が完全に設定されると、送信表示が2回点滅します。
送信表示が2回点滅しなかったときは、再度手順***1.***から行ってください。

順次信号を変更する

リモコンから送信される信号を順次変更し、目的の信号を見つけ出して設定します。

1. **リモコンで操作したい機器の電源をいれます。**

2. **送信表示が 2回点滅するまで、操作したいファンクションボタンを押しながら、*SETUP* ボタンを押します。**

3. **10キーボタンを使い、9、9、1と入力します。**

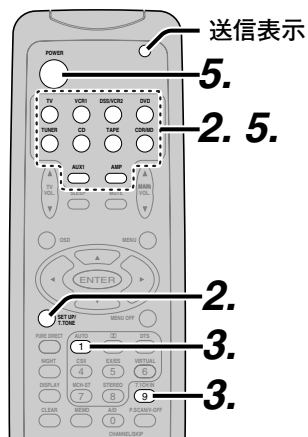
送信表示が 2回点滅します。

4. **リモコンを操作したい機器に向けます。**

5. **操作するファンクションボタンを押した後、POWERボタンを押します。**

ボタンは、ゆっくりと押してください。

6. **操作したい機器の電源が切れるまで、手順*5.*を繰り返します。**

7. **操作したい機器の電源が切れたところで、*SETUP* ボタンを押します。**

変更したコードの確認

変更したコードを送信表示の点滅を利用して確認することができます。

1. **送信表示が 2回点滅するまで、変更を確認したいファンクションボタンを押しながら、*SETUP* ボタンを押します。**

2. **10キーボタンを使い、9、9、0と入力します。**

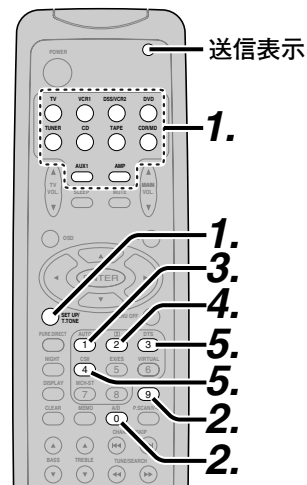
送信表示が 2回点滅します。

3. **コードの 1桁目を確認するために、10キーボタンの 1を押します。**

設定されているコードの1桁目の数だけ送信表示が点滅します。
例えば、1桁目が 3の場合、送信表示は 3回点滅します。
ただし、コード数が 0の場合は、送信表示は点滅しません。

4. **コードの 2桁目を確認するために、10キーボタンの 2を押します。**

設定されているコードの2桁目の数だけ送信表示が点滅します。
例えば、2桁目が 5の場合、送信表示は 5回点滅します。

5. **同様にして、コードの 3桁目、4桁目を確認します。**

故障かな?と思ったときは

症　状	原　因	処　置
本機の電源が入らない。	電源コードが抜けている。	電源コードを正しく接続してください。
本機の電源が入っているが、映像や音声が出ない。	ミュート機能がオンになっている。	リモコンを使ってミュート機能を解除してください。
	本機への各種ケーブルの接続が正しくない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
	音量調整が最小になっている。	音量を適当な位置に調整してください。
	選択した入力ソースの機器が間違っている。	正しいソースを選択してください。
選択した機器からの音声や映像が出ない。	本機への入力ケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
全てのスピーカーから音が出ない。	PHONES 端子にヘッドホーンが接続されている。	ヘッドホーンを外してください。（ヘッドホーンが接続されている間は、スピーカーから音声は出ません。）
特定のスピーカーから違うチャンネルの音が再生される。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカー用ケーブルが正しく接続されていない。	ケーブルを正しく接続してください。
	サラウンドモードで STEREO が選択されている。	他のサラウンドモードを選択してください。サラウンドモードで STEREO が選択されている場合は、センタースピーカーから音声は出ません。
	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて CENTER：NONE が設定されている。	セットアップメニューにて正しい設定（LARGE もしくは SMALL）にしてください。
サラウンドスピーカーから音が出ない。	サラウンドスピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
	サラウンドモードで STEREO が選択されている。	他のサラウンドモードを選択してください。サラウンドモードで STEREO が選択されている場合は、サラウンドスピーカーから音声は出ません。
	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SL & SR：NONE が設定されている。	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて正しい設定（LARGE もしくは SMALL）にしてください。
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	サラウンドバックスピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
	サラウンドモードで EX/ES、Neo:6、CS Ⅱ以外が選択されている。	サラウンドバック再生可能なモードを選択してください。
	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SURR B：NONE が設定されている。	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SURR B：YES に設定してください。
サブウーファーから音が出ない。	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SUB W：NONE が設定されている。	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SUB W：YES に設定してください。
サラウンドモードが変えられない。	PHONES 端子にヘッドホーンが接続されている。	ヘッドホーンを外す。（ヘッドホーンが接続されている間は、サラウンドモードは STEREO の設定になります。）
EX/ES モードが選択できない。	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SURR B：NONE が設定されている。	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SURR B：YES に設定してください。
	入力信号が対応していない。	各種 5.1ch 信号を選択して入力してください。
プロロジックⅡモードが選択できない。	入力信号が対応していない。	各種 2ch 信号を選択して入力してください。
Neo:6 モードが選択できない。	入力信号が対応していない。	各種 2ch 信号を選択して入力してください。
CS Ⅱモードが選択できない。	入力信号が対応していない。	各種 2ch 信号を選択して入力してください。
DTS 信号のある CD や LD からノイズが出る。	アナログ入力にて使用している。	再生機器がデジタル出力できることを確認して、デジタル入力を設定してください。
	CD や LD プレーヤーが DTS 信号の出力に対応していない。	プレーヤー側を確認してください。

症　状	原　因	処　置
96kHzPCM 信号が再生できない。	プレーヤーが 96kHz PCM 信号の出力に対応していない。	DVD プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
	ディスクにて 96kHz PCM 出力が禁止されている。	DVD プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
	DVD プレーヤーのデジタル出力設定が誤っている。	DVD プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
AAC 信号が再生できない	BS デジタルチューナーのデジタル出力設定が誤っている。	BS デジタルチューナーの取扱説明書を参照して下さい。
特定のスピーカーから音が出ない。	対象の信号が記録されていない。	どのスピーカーを使うサラウンド信号が記録されているか、出力側のチャンネルを確認してください。
リモコンを使って本機の操作ができない。	リモコンが違う動作モードになっている。	AMP モードを選択してください。
	リモコンと本機の間が離れ過ぎている。	本機に近付いて、リモコンを操作してください。
	リモコンと本機の間に、リモコンからの信号を妨害する物がある。	信号を妨害している物を取り除いてください。
ビデオ信号が出力されない。	VIDEO － OFF 機能が働いている。	VIDEO － OFF 機能を解除する。
トランスからうなり（ノイズ）が出る。	家庭内の電源事情により、多少目立つことがあります。	電熱器、コタツなどの使用を止めてみてください。
入力信号がないときに、シャーというノイズ（残留ノイズ）が出る。	サラウンド用の DSP を搭載しておりますので、多少目立つことがあります。	2ch ソースをお聞きのときノイズが気になる場合は、Pure-Direct モードでお聞きください。
DVD プレーヤーで CD 再生時に、トラックスキップなどを行うと、曲の頭が少し欠けて再生される。	DVD プレーヤーによってはトラックスキップ時にデジタル信号が途切れるものがあります。サラウンドシステムを適切に合わせるための判別時間が必要なため、少しだけ曲の頭が途切れる場合があります。	この様な DVD プレーヤーを接続する場合、アナログ接続して頂くと問題なく再生することができます。
音が出ないで STANDBY モードになる。	接続されているスピーカーケーブルに、ヒゲなどが出てショートしている。	スピーカーケーブルの裸部分をしっかりよじって、他の端子やリアパネルなどに接触しないように接続してください。
Dolby Digital EX ディスクをデジタル接続で再生しても、サラウンドバックの音声が出ない。	再生しているディスクに、Dolby EX の判別信号が記録されていない。	サラウンドモードを "AUTO" から、"Dolby EX" モードにしてください。
DVD プレーヤーとデジタル接続時に、DTS、または Dolby Digital 収録のディスクを再生しても 5.1ch にならない。	DVD プレーヤー出力設定が間違っている。	DVD プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
DVD で映画などを再生しているとき、音声（せりふ）が聞こえない。	センタースピーカーを接続していない状態で、スピーカー設定の CENTER が "ON" になっている。	センタースピーカーを接続していない場合は、スピーカー設定の CENTER を "NONE" にしてください。
音楽再生時、音像が定位しない。	スピーカーの極性が正しく接続されていない。	スピーカーの極性を確認してください。

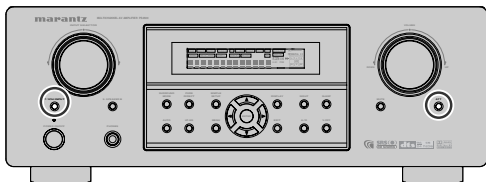
異常動作のときは

本機の前面表示部に異常な表示や誤動作表示などをしている場合、すぐに主電源を切ってください。
再度電源を入れても症状が変わらない場合、電源コードを抜いてください。
その後、お買い上げになった販売店もしくはお近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

メモリバックアップについて

本機の主電源を切った状態でも、設定した各種内容を内部不揮発性メモリーに記憶しております。

初期状態に戻すには（リセット）

「故障かな?と思ったときは」を参考にされても、不具合が解決しない場合は、本機のリセットを試してみてください。
但しリセット行うと、セットアップメニューにて設定した内容、サラウンドモードの設定の情報が消去されますことをご了承ください。

1. 電源が入っていることを確認します。

2. 本体の*7.1CH INPUT* ボタンを押しながら、*ATT* ボタンを3秒以上押します。

本機は一度スタンバイ状態になった後、再度POWERーON状態となり、各種設定された内容が初期化され、工場出荷時の状態に戻ります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証・アフターサービス

1. この商品には保証書を別途添付してあります。

保証書は「販売店・お買い上げ日」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。

2. 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

お買い上げ販売店、または弊社営業所で保証書記載事項に基づき「無料修理」いたします。

3. 保証期間経過後の修理。

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4. 弊社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。

5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または弊社営業所・サービスセンターに遠慮なくご相談ください。

6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度「故障と思ったときは」をご参照の上よくお調べください。それでも直らないときには、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）　品 名 AV サラウンドアンプ

2）　品 番 PS4500

3）　お買上げ日　年　月　日

4）　故障の状況（できるだけ具体的に）

5）　ご住所

6）　お名前

7）　電話番号

仕　様

オーディオ パワーアンプ部

定格出力（20 Hz - 20 kHz ／THD＝0.08%）
フロントL/R .... 80 W/CH 8Ω
センター .... 80 W/CH 8Ω
サラウンドL/R .... 80 W/CH 8Ω
サラウンドバックL/R ..... 80 W/CH 8Ω
フロントL/R .... 105 W/CH 6Ω
センター .... 105 W/CH 6Ω
サラウンドL/R .... 105 W/CH 6Ω
サラウンドバックL/R ... 105 W/CH 6Ω
実用最大出力（1kHz ／JEITA）
フロントL/R .... 130 W/CH 6Ω
センター. .... 130 W/CH 6Ω
サラウンドL/R .... 130 W/CH 6Ω
サラウンドバックL/R ... 130 W/CH 6Ω
出力帯域幅（50W / 0.09%）
（ダイレクト 入力） .... 6 Hz - 50 kHz
周波数特性（ダイレクト 入力）
.... 5 Hz -100 kHz（+/-3 dB）
S/N比（ダイレクト 入力） .... 105 dB
ダンピングファクター 100
入力感度/インピーダンス ... 168mV/47 kΩ

デコーダー＆プリアンプ部

再生対応信号フォーマット
.... PCMオーディオ
（fs=32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz）、
DOLBY DIGITAL、DOLBY DIGITAL EX.、
DTS、DTS-ES、DTS96/24、AAC
周波数特性
（アナログ入力：ソースダイレクトモード）
.... 5 Hz -100 kH z（+/-3 dB）
（デジタル入力：PCM 96 kHz）
.... 5 Hz - 45 kH z（+/-3 dB）
S/N比
（ソースダイレクトモード：20kLPF＆ A-weight）
.... 104 dB

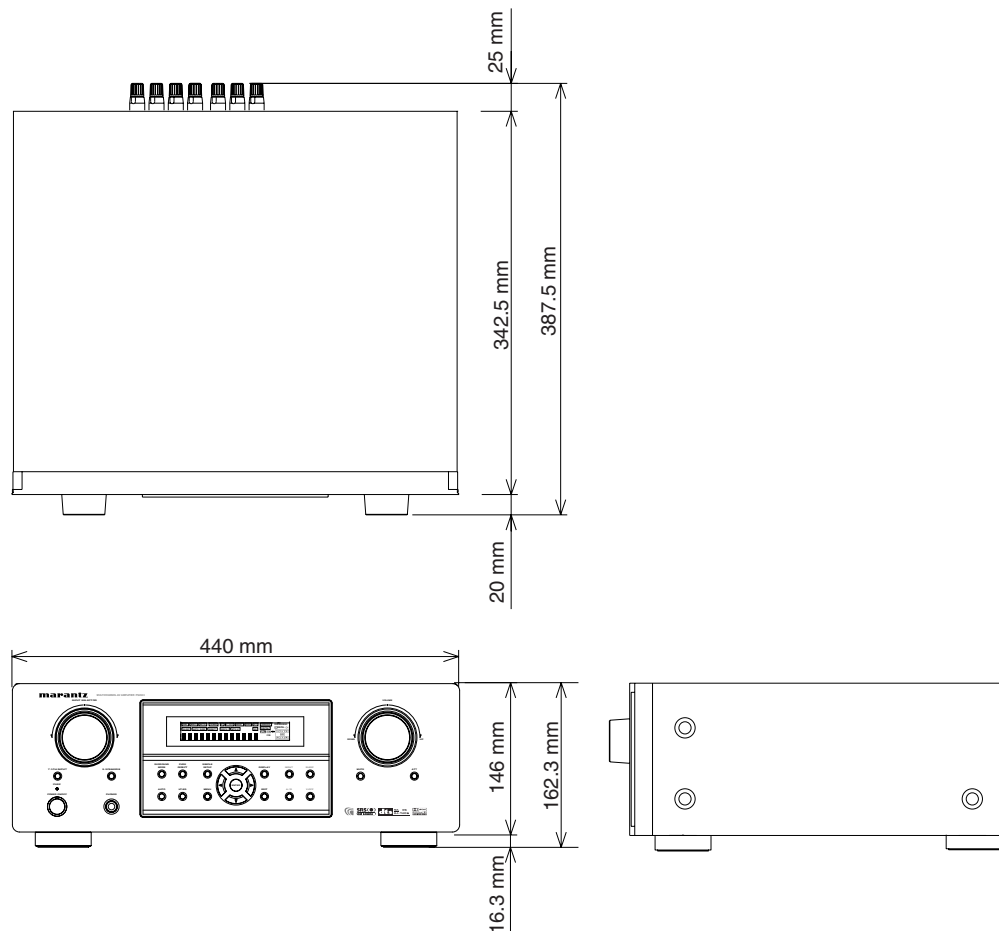
ビデオ部

信号方式 .... NTSC
入力･出力インピーダンス .... 75 Ω
入出力レベル（100%） .... 1 Vp-p
S/N比 .... 60 dB
周波数特性（Video、S-Video ）
.... 5 Hz -10 MHz（-3dB）
周波数特性（コンポーネントVideo）
.... 5 Hz -45 MHz（-3dB）

総合

電源電圧 .... AC 100 V 50/60 Hz
消費電力 .... 320 W
スタンバイ消費電力 .... 0.8 W
重量 .... 12.0 kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

外観寸法図

セットアップコード

CDプレーヤー

Aiwa 0184
Burmester 0447
California Audio Labs 0056
Carver 0184, 0206
Classic 0324
Denon 0030
DKK 0027
DMX Electronics 0184
Emerson 0332
Fisher 0352, 0206
Garrard 0447
Genexxa 0059, 0332
GPX 0323
Harman/Kardon 0184, 0200, 0229
Hitachi 0059
Integra 0128
JVC 0099, 0321
Kenwood 0055, 0064, 0217
KLH 0345
Koss 0344
Krell 0184
Linn 0184
Luxman 0120
LXI 0332
Magnavox 0184, 0332
Marantz 0999, 0056, 0184
MCS 0056
Miro 0027
Mission 0184
MTC 0447
NSM 0184
Onkyo 0128
Optimus 0027, 0059, 0064, 0332, 0206, 0495, 0172, 0447, 0102
Panasonic 0056
Parasound 0447
Philips 0999, 0184
Pioneer 0059, 0332, 0495
Polk Audio 0184
Proton 0184
QED 0184
Quad 0184
Quasar 0056
RadioShack 0102
RCA 0089, 0059, 0447, 0080, 0332, 0206, 0495
Realistic 0447, 0206
Rotel 0184, 0447
SAE 0184
Sansui 0184, 0332
Sanyo 0206
Scott 0332
Sears 0332
Sharp 0064
Sonic Frontiers 0184
Sony 0027, 0127, 0391
Soundesign 0172
Symphonic 0332
TAG McLaren 0184
Tascam 0447
TDK 0235
Teac 0447
Technics 0056
Victor 0099
Wards 0184, 0080
Yamaha 0063, 0319
Zonda 0184

CDR プレーヤー

Classic 0324
Fisher 0352
Harman/Kardon 0229
JVC 0321
Kenwood 0999
Marantz 0999
Philips 0999
Pioneer 0089, 0114
Sony 0391, 0127
TDK 0235
Teac 0447
Yamaha 0319

MD プレーヤー

Denon 1900
Kenwood 1708, 1853
Marantz 1207
Onkyo 1895
Optimus 1090
Pioneer 1090
Sharp 1888
Sherwood 1094
Sony 1517
Yamaha 1915

テープデッキ

Aiwa 0056, 0227, 0224
Akai 0310
Carver 0056
Denon 0103
Fisher 0101
Garrard 0466, 0335
Harman/Kardon 0209, 0056
JVC 0271, 0300
Kenwood 0097
Magnavox 0056
Marantz 0056, 0036
Mitsubishi 0310
NAD 0171
Onkyo 0309, 0163, 0162
Optimus 0054, 0247, 0466, 0364
Panasonic 0256
Philips 0056
Pioneer 0054, 0247, 0126
Polk Audio 0056
RCA 0054, 0247
Revox 0217
Sansui 0056, 0036
Sherwood 0364
Sony 0270, 0197, 0318
Teac 0335
Technics 0256
Victor 0300
Wards 0054
Yamaha 0124, 0121

衛星放送チューナー

AlphaStar 0799
Chaparral 0243
Crossdigital 1136
DirecTV 0419, 0593, 0666, 1666, 1169, 0274, 0776, 1776, 0751, 0846, 1883, 1103, 1136, 0126, 1470, 1469
Dish Network System 1032, 0802, 1197
Dishpro 1032, 0802
Echostar 1032, 0802, 1197
Expressvu 0802
GE 0593
General Instrument 0896
GOI 0802
Hitachi 0846
HTS 0802
Hughes Network Systems 1169, 0776, 1776, 1470, 1469
JVC 0802, 1197
Magnavox 0751, 0749
Memorex 0751
Mitsubishi 0776
Motorola 0896
Next Level 0896
Panasonic 0274, 0728
Paysat 0751
Philips 1169, 0776, 1776, 0751, 1103, 0749, 0126, 1469
Proscan 0419, 0593
RadioShack 0896
RCA 0419, 0593, 0882, 0170
Samsung 1303, 1136
SKY 0883
Sony 0666, 1666
Star Choice 0896
Tivo 1169, 1470, 1469
Toshiba 0776, 1776, 0817, 1312
Uniden 0751, 0749
Zenith 0883, 1883

テレビ

Admiral 0120, 0490
Advent 0788, 0869
Aiko 0119
Akai 0729, 0057, 0699
Albatron 0870
America Action 0207
Anam 0207
AOC 0057
Apex Digital 0775, 0792, 0906
Audiovox 0478, 0207, 0119
Bell & Howell 0181
Bradford 0207
Broksonic 0263, 0490
Candle 0057
Carnivale 0057
Carver 0081
Celebrity 0027
Celera 0792

Changhong 0792
Citizen 0087, 0057, 0119
Clarion 0207
Contec 0207
Craig 0207
Crosley 0081
Crown 0207
Curtis Mathes 0074, 0081, 0181, 0478, 0120, 0087, 0729, 0057, 0172, 0193, 1174, 1374
CXC 0207
Daewoo 0478, 1688, 0119, 0699
Denon 0172
Dumont 0044
Durabrand 0207, 0205
Electroband 0027
Elektra 0044, 1688
Emerson 0181, 0263, 0490, 0207, 0205, 0198
Envision 0057
Fisher 0181
Fujitsu 0710, 0880, 0836
Funai 0207, 0198
Futuretech 0207
Gateway 1782, 1783
GE 0074, 0078, 0478, 0205, 1474, 1374, 1174
Gibralter 0044, 0057
GoldStar 0057, 0205
Grunpy 0207
Hallmark 0205
Harman/Kardon 0081
Harvard 0207
Havermy 0120
Hello Kitty 0478
Himitsu 0207
Hisense 0775
Hitachi 1172, 0172
Infinity 0081
Inteq 0044
JBL 0081
JCB 0027
Jensen 0788
JVC 0080
KEC 0207
Kenwood 0057
KLH 0792
KTV 0207, 0057
LG 1205, 0883, 0469
LXI 0074, 0081, 0181, 0183, 0205
Magnavox 0081, 0057, 1481, 0733, 1281
Marantz 0081, 0057, 1581, 0731
Matsushita 0277, 0677
Megatron 0205, 0172
Memorex 0181, 0490, 0177, 0205
MGA 0177, 0057, 0205
Midland 0074, 0044, 0078
Mitsubishi 0120, 0177, 1277, 0205, 0863
Monivision 0870
Motorola 0120
MTC 0087, 0057
Multitech 0207
NAD 0183, 0205
NEC 0057, 1731
Nikko 0057, 0205, 0119
Norcent 0775, 0851
NTC 0119
Onwa 0207
Optimus 0181, 0277, 0193, 0677
Optonica 0120
Orion 0263, 0490
Panasonic 0277, 0078, 0677
Penney 0074, 0183, 0078, 0087, 0057, 0205, 1374
Philco 0081, 0057
Philips 0081, 1481, 0717
Pilot 0057
Pioneer 0193, 0706
Portland 0119
Prima 0788
Prism 0078
Proscan 0074, 1474, 1374
Proton 0205
Pulsar 0044
Quasar 0277, 0078, 0677
RadioShack 0074, 0181, 0207, 0057, 0205
RCA 0074, 1474, 1274, 1574, 0117, 1174, 1074, 1374, 0706
Realistic 0181, 0207, 0057, 0205
Runco 0044, 0057
Sampo 0057, 1782
Samsung 0087, 0729, 0057, 0205
Sansui 0490
Sanyo 0181
Scotch 0205
Scott 0263, 0207, 0205
Sears 0074, 0081, 0181, 0183, 0205, 0198
Sharp 0120
Sheng Chia 0120
Sony 0027
Soundesign 0207, 0205
Squareview 0198
SSS 0207
Starlite 0207
Studio Experience 0870
Supreme 0027
SVA 0775, 0892
Sylvania 0081, 0057, 0198
Symphonic 0207, 0198
Tandy 0120
Tatung 1783
Technics 0277, 0078
Techwood 0078
Teknika 0081, 0207, 0177, 0087, 0119
Telefunken 0729
TMK 0205
TNCi 0044
Toshiba 0181, 0183, 0087, 1283, 1383, 1183, 1731, 0677
TVS 0490
Vector Research 0057
Victor 0080
Vidikron 0081
Vidtech 0205
Viewsonic 1782
Wards 0081, 0057, 0205, 1183
Waycon 0183
White Westinghouse 0490
Yamaha 0057
Zenith 0044, 0490, 0205, 0119

ビデオデッキ

Admiral 0075, 0236
Adventura 0027
Aiwa 0064, 0027
American High 0062
Asha 0267
Audiovox 0064
Beaumark 0267
Bell & Howell 0131
Broksonic 0211, 0148, 0236, 1506
Calix 0064
Canon 0062
Carver 0108
Citizen 0064, 1305
Craig 0064, 0074, 0267
Curtis Mathes 0087, 0062, 0189, 1062
Cybernex 0267
Daewoo 0072, 1305
Denon 0069
Durabrand 0066
Dynatech 0027
Electrohome 0064
Electrophonic 0064
Emerex 0059
Emerson 0064, 0211, 0027, 0148, 0070, 0236, 1305, 1506
Fisher 0074, 0131
Fuji 0062, 0060
Funai 0027
Garrard 0027
GE 0087, 0062, 0267, 1087, 1062, 0834
GoldStar 0064, 1264
Gradiente 0027
Harley Davidson 0027
Harman/Kardon 0108
HI-Q 0074
Hitachi 0027, 0069
Hughes Network Systems 0069
JVC 0094
KEC 0064
Kenwood 0094
Kodak 0062, 0064
Lloyd's 0027
LXI 0064
Magnasonic 1305
Magnavox 0062, 0066, 0108, 0027, 1808
Magnin 0267
Marantz 0062, 0108, 1408
Marta 0064
Matsushita 0062, 0189
MEI 0062
Memorex 0062, 0189, 0064, 0075, 0066, 0074, 0267, 0027, 0131, 0236, 1264
MGA 0267, 0070
MGN Technology 0267
Minolta 0069
Mitsubishi 0094, 0070, 0834
Motorola 0062, 0075
MTC 0267, 0027
Multitech 0027
NAD 0085
NEC 0131, 0094
Nikko 0064
Noblex 0267
Olympus 0062
Optimus 1089, 0189, 0064, 0075, 0131, 0085

Orion 0211, 0236, 1506
Panasonic 1089, 0062, 0189, 0252, 1062, 0643
Penney 0062, 0064, 0267, 0069, 1264, 1062
Pentax 0069
Philco 0062
Philips 0062, 0108, 0645
Pilot 0064
Pioneer 0094, 0085
Polk Audio 0108
Profitronic 0267
Proscan 0087, 1087
Pulsar 0066
Quasar 0062, 0189, 1062
RadioShack 0027
Radix 0064
Randex 0064
RCA 0087, 0267, 0069, 1062, 0907, 0085, 0834, 1087
Realistic 0062, 0064, 0075, 0074, 0027, 0131
ReplayTV 0643
Runco 0066
Samsung 0267, 0072, 1041
Sanky 0075, 0066
Sansui 0027, 0094, 0236, 1506
Sanyo 0074, 0267, 0131
Scott 0211, 0072, 0148, 0070
Sears 0062, 0064, 0074, 0027, 0069, 0131, 1264
Sharp 0075, 0834
Shogun 0267
Sonic Blue 0643
Sony 0062, 0059, 0060, 0027, 1259, 0663
STS 0069
Sylvania 0062, 0108, 0027, 0070, 1808
Symphonic 0027
Teac 0027
Technics 0062, 0189
Teknika 0062, 0064, 0027
Thomas 0027
Tivo 1530, 0663, 0645
TMK 0267
Toshiba 0072, 0070, 1530, 1172, 0872
Totevision 0064, 0267
Unitech 0267
Vector 0072
Video Concepts 0072
Videomagic 0064
Videosonic 0267
Villain 0027
Wards 0087, 0062, 0075, 0074, 0108, 0267, 0027, 0069
White Westinghouse 0236
XR-1000 .... 0062, 0027
Zenith 0066, 0060, 0027, 0236, 1506

DVD プレーヤー

Aiwa 0668
Allegro 0896
Apex Digital 0699, 0823, 1031, 1127, 0821, 0857, 1088, 0824, 1047
Blue Parade 0598
Broksonic 0722
CineVision 0903, 0896
Curtis Mathes 1114
CyberHome 1050, 0843, 1051
Daewoo 0896, 0860
Denon 0517
DVD2000 0548
Emerson 0618, 0848
Enterprise 0618
GE 0549, 0842
Go Video 0860, 0742, 0896
Harman/Kardon 0729, 0609
Hitachi 0600
Hiteker 0699
JBL 0729
JVC 0585, 0650, 0894
Kenwood 0517, 0561
KLH 1047
Koss 0678
Magnavox 0530, 0848
Marantz 0566
Memorex 0722
Microsoft 0549
Mintek 0866
Mitsubishi 1548, 0548
Onkyo 0530
Oritron 0678
Panasonic 0517, 1789, 1389
Philips 0530, 0566, 0673, 0881
Pioneer 0552, 0598
Polaroid 1088
Polk Audio 0566
Proscan 0549
Qwestar 0678
RCA 0549, 0598, 0849, 1049
Rio 0896
Rotel 0650
Sampo 0779
Samsung 0517, 0600, 0847
Sansui 0722
Sanyo 0722
Sharp 0657, 0779
Shinsonic 0560, 0866
Sonic Blue 0896
Sony 0560, 0891, 1060
Superscan 0848
Sylvania 0848
Technics 0517
Theta Digital 0598
Toshiba 0530, 1072, 0722
Tredex 0826
Urban Concepts 0530
US Logic 0866
Xbox 0549
Yamaha 0517, 0566, 0572
Zenith 0530, 0618, 0896

marantz®

お客様ご相談センター

〒104-0033　東京都中央区新川1-21-2　茅場町タワー13F

☎（03）3719-3481

ご相談受付時間

9：30ー12：00　13：00ー17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング

〒104-0033　東京都中央区新川1-21-2　茅場町タワー13F

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。

http://www.marantz.jp

Printed in China　　12/2005　00M07BW851113　mzh-d